

# 学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **88** 2024  
春号

Special Feature

理事長・学長からの  
メッセージ vol.31

コシノジュンコさんに  
講義をしていただきました



# Contents

## 特集

理事長・学長からのメッセージ vol.31	3
令和5年度 卒業式	4
令和6年度 入学式	6
令和6年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	8
退任の挨拶	10
就任の挨拶	11
MBT 研究所だより (第32報)	13
国際交流センターだより vol.15	14
図書館だより	18
先端医学研究支援機構だより	19
働き方改革だより	20
看護部の紹介	22

## Topics

### Campus News

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン・インテンシブセミナーを開催して	23
平成記念病院と連携した災害医療訓練を実施しました	24
医学科6年生竹下さん筆頭著者の論文がBMC Public Health誌に掲載	24
コシノジュンコさんに授業をしていただきました	24
ニュージーランド ファースト・レスポnder研修	25
2巡目医学教育分野別評価を受審しました	26
近畿地区近隣医科大学共同フォーラムに参画しました	27
一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団 主催「漢方医学教育 SYMPOSIUM2024」で発表しました	27
臨床研究 県民公開講座を開催しました	27
医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました	28
第19回地域医療連携懇話会を厳樞会館で開催しました	30
附属病院DMAT第2隊、JRAT等を石川県へ派遣しました	30
MBT 研究所運営会議を開催しました	31
TQM大会を対面開催しました	31
わい和いNARA在宅サポート研究会が事例検討会を開催致しました	32
ならコープ健康大学でMBT 講義をしました	32
令和5年度リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました	33
第1回モバイルモニタリング研究会が開催されました	34
協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	34

### Winner Report

第31回日本組織適合性学会大会で大会長賞を受賞しました	35
The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society in conjunction with the 61st Annual Meeting of Japan Society of Clinical OncologyにてBest Oral Presentation Awardを受賞しました	35
医学教育等関係業務功労者表彰	35
日本臨床麻酔学会第43回大会で優秀賞を受賞しました	35
第35回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会において新人賞を受賞しました	36
日本口腔腫瘍学会総会・学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました	36
令和5年度 学位授与の状況	36
第45回日本エンドメトリーシス学会で演題発表賞を受賞しました	37
第16回日本ロボット外科学会学術集会において優秀演題賞を受賞しました	37
第64回東レ科学技術研究助成に採択されました	37
第36回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞を受賞しました	38
未来への飛躍基金だより	38

### Information

日本消化器病学会近畿支部主催「市民公開講座」	39
第6回わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会	39

### 寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございます	39
メディア掲載情報	40
編集後記	40

## 大阪・関西万博で奈良医大を世界に紹介

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大は、大阪関西万博を通じて、全国にそして世界に奈良医大をアピールしようと考えています。3月25日に大阪産業局、大阪商工会議所から大阪ヘルスケアパビリオンに出展する団体が発表され、本学が選定されました。期間限定ですが、本パビリオンで大学の出展例は少なく、本学をアピールできるのではないかと考えています。また、MBT コンソーシアム企業が費用負担する形で出展の予定です。

本パビリオンが奈良医大の出展決定の第1号ですが、その他のパビリオンにおいても、より長期にわたって奈良医大を広報する場を設けたいと考えています。4月26日には自見英子万博担当大臣を訪ねて、政府館や万博協会等における奈良医大の知識や技術の活用についてお願いして参りました。この他、いくつかの民間パビリオンで奈良医大の成果が披露されることになると思います。

# 令和5年度 卒業式

## 式辞

学長 細井 裕司

今日のおき日、奈良県立医科大学医学科を卒業する109名、看護学科を卒業する86名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。皆さんは小学校入学以来の長い学生生活を修了され、ここに学士（医学）、学士（看護学）の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。

これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思ひます。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました、奈良県副知事 村井 浩様をはじめ、御来賓並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

## 奈良医大は一生の宝

満足のいく人生を送るために、最も助けになるのは友人です。大学時代の友人は、本当に親身になってくれますので、安心して相談ができる人々です。一生の宝です。それにも増して大きな宝があります。それは母校奈良県立医科大学です。皆さんが卒業後、40歳、50歳、60歳になったとき、母校の力が必要な時があると思ひます。奈良県立医科大学の卒業生で良かったと感じる時が必ず来ます。

## 本学の多様性

私は、母校奈良医大が他大学と異なる特別な大学でありたいと考えてきました。その一つが多様性です。皆さんが医学、看護学を学び、立派な医師、看護師となれるような環境整備を行ってきました。しかし、在籍中に、専門科目だけを修めれば良いとは思ひません。医科大学という専門大学においても、人生のどこかで役立つことが、知らず知らずではあっても、学べる環境は重要だと考えています。本人がその活動に直接参加しなくても、友人が参加し、その影響を間接的に受けることもあると思ひます。このような活動のうち、皆さんの在学中に行われたことを思

い出してください。また、皆さんが卒業後、早期に行うことについても紹介しますので、参考にしてください。

## 皆さんの在学中

皆さんは、リサーチ・クラークシップで、国内外の有力大学や研究所で実習をされました。学外の多くの人と接することにより、得られたものは多いと思ひます。

医学知識を患者さんに直接使用することは当然のことです。しかし、医師や看護師は膨大な医学知識、もっと広く言えば、人間に関する知識を持っています。この知識をより広く社会に貢献できるようにする目的で、MBT（Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり）運動を展開しています。単科の医科大学に鉄鋼、電機、金融など全業種から約200社が集まり、産業創生、まちづくり、社会貢献を行うコンソーシアムが奈良医大にあります。おそらく世界で唯一の組織だと思ひます。本年1月13日には、読売大手町ホールで難病克服支援 MBT 映画祭を行い、女優の吉永小百合様にもお越しいただきました。

リスクを恐れず、新しいことを創造する精神、アントレプレナーシップは、医師、看護師にとっても重要です。ここ2年ほどで次々と奈良医大発ベンチャーの起業が行われました。

種々の分野の著名な方に奈良医大特命教授として、講義をいただきました。先日他界されましたが、ダイソー創業者の矢野博丈様をはじめ、DMG 森精機社長の森雅彦様、パナソニック前会長の長榮周作様、コシノジュンコ様など多彩な顔ぶれです。このような異分野の方々の講義は医療専門職の講義では得られない何かがあると思ひています。

## 皆さんの卒業後

皆さんの卒業後も奈良医大は進化、発展して参ります。皆さんは奈良医大を卒業された後も母校奈良医大と強い繋がりをもって世の中に出られます。母校の発展は皆さんの一生の心の拠り所となります。近い将来の奈良医大の発展の一端を示します。

奈良医大は、基礎研究の充実を図る基本方針を役員会で決定しました。この基本方針に則って、基礎医学を志す人への支援を行います。また、この4月1日には、オートファジー・抗老



医学科卒業生



化研究センターを立ち上げます。4月16日には、オートファジー・抗老化研究センター設立講演会をノーベル賞受賞者の大隅良典東京工業大学栄誉教授をお迎えして行います。日本の抗老化研究のメッカにしたいと考えています。

また4月1日には、附属病院に高度生殖医療センターを開設し、5月11日に開設記念シンポジウムを行います。木村教授主導のもと、日本における生殖医療の臨床、研究の中心として発展していただきたいと期待しています。

現在の病院は建築物の高さ制限により、最高31mとなっています。患者さんにも、教職員にもやさしい病院作りのためには、高層化が必要です。高さ制限を緩和し、最新の病院にふさわしい建物の病院にしたいと思っています。

## 皆さんの誇り

私がなぜこのような話をしたのか、それは、皆さんが、独自の視点と考えを持った、挑戦し続ける医科大学で学んだ医師や看護師であることに誇りを持っていただきたいからです。この進取の気性に富んだ大学で育ったことは、皆さんの将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」になることの土台になると思います。そして、独自の視点、独自の考え、挑戦する意欲を持つことによって、卒業後日本で、そして世界で存在感のある人に成長していくでしょう。

## おわりに

式辞を終わるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」です。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大で大きな能力を身につけて世の中に出発されます。もし皆さんが人生の途中で「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

来年は奈良医大開学80周年です。そして新キャンパスが完成します。1年後にできる新キャンパスのパースを見ながら、再度述べます。

「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」

本日は本当におめでとうございます。



看護学科卒業生

## 新たなる旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和6年3月14日）

今年も260名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（260名：医学科109名、看護学科86名、大学院医学研究科博士課程53名、同修士課程5名、看護学研究科修士課程7名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

### ◆奈良県立医科大学学長賞

医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：<sup>うけがわ こうき</sup> 請川 恒輝

看護学科：<sup>つだ ゆめほ</sup> 津田 夢帆

### ◆医学科同窓会厳糧賞、看護学科同窓会華糧賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳糧賞：<sup>ながしま あきり</sup> 永島 慧法、<sup>いまづ ゆうき</sup> 今津 勇輝、<sup>たけした さき</sup> 竹下 沙希

華糧賞：<sup>はなかし のむら わくと</sup> 野村 湧人

### 学長賞受賞者



医学科 請川 恒輝

この度学長賞という名誉ある賞をいただき身に余る光栄です。大学6年間は幸いにして「良き出会い」に恵まれました。教職員の先生方をはじめ、人体解剖実習において御献体くださった方の御心、御遺族、臨床実習に協力してくださった全ての患者の方々、諸先輩方、共に高め合った友人、全ての方々に感謝申し上げます。

臨床実習では習得した知識通りにはなかなかいかず、十分な知識と経験とを両輪として向き合うことが不可欠のだと強く感じました。

偉大な先人たちが築き上げてきた礎をもとに発展し続ける医学。日々現状の自分に満足することなく日進月歩の医学に遅れをとらないよう医学知識、技術を磨き、精進し続けるとともに、常に自分に厳しく周りに温かみを持って接する医師になることを誓います。何らかの形でその礎に名を刻み功績を後世に伝えることを医師人生の目標に、挑戦、邁進し続けて参りたいと考えています。



看護学科 津田 夢帆

この度は、学長賞という名誉ある賞をいただき大変嬉しく思います。学生生活を振り返ると、困難も多々ありましたが、たくさんの方との出会いのなかで日々成長することができた4年間だったと感じています。コロナ禍の中で始まり、思い描いていたような学生生活は送れませんでした。様々な人々のサポートがあり、実習や講義を通して学びを深めることができました。

このように4年間で人として大きく成長できたのは、指導して下さった先生や指導者の方々、共に切磋琢磨しながら支え合ってきた友人などのおかげであり、全ての方に感謝申し上げますと共に、この出会いを大切にしたいと思います。今後は奈良医大での学びを大切に患者様に寄り添えるような看護職になれるよう精進してまいります。

# 令和6年度 入学式

## 式辞

学長 細井 裕司

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科113名、同2年次編入学生2名、医学部看護学科85名、合計200名の晴れやかな入学生の皆さんを奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。

また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。なお、ご列席いただけない皆様方のために、その模様をウェブ配信させていただいています。

公務ご多忙の中御臨席いただきました、奈良県知事 山下 真様をはじめ、ご来賓並びに関係各位に厚く御礼を申し上げます。

### はじめに

先日、医師や看護師の資格と、「奈良医大で学んで良かった」という思いを持って、医学科6年生・看護学科4年生の皆さんが卒業されました。今私は、「資格」を持ってと申し上げました。奈良医大が皆さんに与えるのは、資格だけではありません。他の大学の卒業生を上回る実力を身につけて卒業されます。実力だけではありません。アントレプレナーシップです。医師や看護師にとっても、豊かな人生を送る上で非常に重要な資質です。本日の入学生の中には、奈良医大に入学することを望んでおられなかった方もおられると思います。私はそのような方に対して、自信を持って言えることがあります。それは、私がそうであるように、20年後、30年後、皆さん方が40歳になり、50歳になった時に、奈良医大で学んで本当に良かったと思うということです。奈良医大ではアントレプレナーシップ醸成のために、医学以外の分野の著名な方に奈良県立医科大学MBT特命教授になっていただき特別講義をお願いしています。先日お亡くなりになりましたが、そのうちのお一人でありましたダイソー創業者の矢野博文様のお話を伺いますと、「自分は職業を9回変えた。1964年の東京オリンピックのボクシングの強化選手になり、プロボクサーになりたかったが、実力が少し足らずなれなかった。」もし、矢野様が望まれていたようにプロボクサーになれていたなら、世界に5000店舗以上を有する世界企業の創業はなかったことになり。つまり、能力と努力は個人に備ったもので、能力があり努力すれば、どこでも花は開くことを示しています。皆さんは、今まで大学受験を目標として、保護者の方と一体となって励んでこられたと思います。思うようにいかなかった方にとっても、20年後、30年後はどちらが良かったかわかりません。いや、わからないのではなく、与えられた運を最大限に生かすことができるかどうかです。奈良医大はその運を生かすために、様々な機会を皆さんに与えます。是非、奈良医大に入学した運を最大限に生かしてください。私のこの式辞をお聞きになって、「自分は喜んで奈良医大に入学しているのに」と違和感を抱かれている入学生の方がおられると思います。「喜んで入学された皆さん」はその喜びは正しい喜びです。自己の努力によって入学された運をますます伸ばしてください。

もう一つお話ししたいことがあります。1956年に、「AI」(人工知能)という用語がダートマス会議でジョン・マッカーシーら

によって初めて提唱されました。AIの定義や範囲は時間とともに拡大し、現在では広範囲にわたる技術や応用分野を指す用語として使われています。60年以上が経過してよいよAI時代に入ってきたと言えます。

ChatGPTなど、会話型AIが急速に進展しています。この一連の流れから皆さんに感じていただきたいのは、世の中の急速な進歩です。とりわけ医学の進歩は急速で、止まることはありません。昔は、1年や2年知識の習得が遅れても、取り返すことができました。今は、世の中の進歩が急速なため、それについて行くのにゆっくりとしている時間はないと言えます。このことも念頭に置きながら、クラブ活動など大学生活を楽しんでいただきたいと思います。つまり自分を進歩させる時間とリラックスする時間のメリハリが大切だと考えています。

私が先ほど述べました、「奈良医大で学んで良かった」という諸先輩の感想、その証拠として、マッチング率100%があります。初期研修の定員を100%満たしたのは奈良県のみです。つまり、奈良医大の多くの卒業生が他府県に行かず、奈良医大やその関連病院に就職したことを表しています。なぜ東京都や大阪府など大都会でさえなしえなかった100%のマッチング率を奈良県が成し遂げられたのか。奈良医大の教育についてお話しします。

### 奈良医大の特徴

奈良医大はどのような大学か。それは、発展する医科大学、面倒見の良い医科大学、進取の気性に富む医科大学、奈良を基盤にして全国展開する医科大学、そして他学にはない力を持つ特別な医科大学です。これらは、奈良県唯一の医科大学、特定機能病院として、奈良県の後立てのもとに実行されています。奈良医大は奈良県によって、大切に支え育てていただいていると言えます。

### 発展する医科大学

教育、研究、臨床という医科大学の基本的使命については、教育改革、研究論文の質と量、病院機能の充実等、着実に発展していますが、ここでは、目に見える進捗を報告します。それは、継続して行われている大学の整備計画のうち、1年後に完成を予定している新キャンパスです。新キャンパスのパスをご覧ください。



細井学長による式辞



## 面倒見の良い医科大学

奈良医大は在学中だけでなく、医師や看護師として活動する一生をサポートします。奈良医大に入学された方を、特に専門教育面で、一生面倒を見る医療人育成機構を創設しました。奈良医大独自の「未来への飛躍基金」を用いて学生の海外留学を促進しています。今までに多くの先輩が海外で研修されました。国内の有力研究機関への留学も促進しています。

## 進取の気性に富む医科大学

単に医学の知識を教えるのではなく、医学以外の広い分野も知り、考える力を持つ医師・看護師を育てようと思っています。その一環として、アントレプレナーシップの醸成に力を入れています。アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医科大学においてもこの精神は重要だと思えます。

総合大学と異なり、医科大学発のベンチャー企業は多くありません。奈良医大ではこの3年間に5社が起業し、合計6社となりました。私は、奈良医大の教職員だけでなく、学生にもベンチャーを起業する意気込みをもっていただきたいと思っています。ビル・ゲイツ氏もマーク・ザッカーバーグ氏も学生時代に起業しています。

アントレプレナーシップの醸成のために、経済界など各界の著名人に奈良県立医科大学特命教授になっていただき、学生に接していただくことによって、視野を広く持つ人間として成長していただくように心がけています。昨年度は、ダイソー創業者の故矢野博丈様やDMG森精機社長の森雅彦様、コシノジュンコ様、パナソニック前会長の長榮周作様、クオールホールディングス会長の中村勝様、金融界から城南信用金庫の川本恭二様に講義をおこなっていただきました。

## 奈良を基盤にして全国展開する医科大学

奈良医大には今皆さんがおられる橿原市四条町のキャンパス以外に新キャンパスと全国に7カ所のキャンパスがあります。現キャンパス、新キャンパスの他に、北海道、東京、大阪、奈良県内に4カ所のキャンパスがあります。そのうちの、4つのキャンパスには大学院も設置しています。



入学生一同

## 特別な医科大学

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして19年かかって奈良医大独自のMBT構想が大きく社会に貢献するようになってきました。MBTとはMedicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくりのことで、私の造語です。その中心となっているのが、奈良医大MBT研究所と一般社団法人MBTコンソーシアムです。

MBT20年の歩みは、2004年に私がMBTのもととなる「住居医学」を発想し、大和ハウス様からの6億円の寄付により寄附講座「住居医学」を開設したことに始まります。その後、住居からまちづくりに進展しますが、その基本理念は、「医学的研究の知見を患者さんのために使うことは当然だが、それだけでなく、新製品開発や産業創生に応用してイノベーションを起こす。」というものです。この基本理念に賛同し、奈良医大とともに、医学的に正しい知識に基づいた産業イノベーションを起こすべく集まっていたいる企業は、約200社を数えます。医薬品メーカーだけでなく、鉄鋼、電機、金融などすべての業種から参加いただいております。まちづくりに関しましても、21都道府県36カ所において、まちづくりに医学知識を投入しています。医科大学がこのような規模でまちづくりに貢献している例はないと思います。これらの社会活動は日本経済団体連合会に認められ、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開しています。社会貢献活動として、本年1月13日に東京大手町で行いました難病克服支援MBT映画祭には吉永小百合様も駆けつけていただきました。

## 基礎・臨床医学への最近の注力

奈良医大は基礎医学にも、臨床医学、看護学にも注力しています。ここでは、基礎と臨床から2つのトピックスを示します。

奈良医大は、「基礎医学者を育てることを基本方針」とし、基礎医学者になろうとする医師の優遇策を実施します。その一環として、オートファジー・抗老化研究センターを立ち上げました。そのキックオフシンポジウムを4月16日にノーベル賞受賞者の大隅教授をお迎えして、開催します。学生、保護者の皆様にも参加いただけたら幸いです。附属病院に、高度生殖医療センターを開設しました。不妊に悩まれる方のために、高度なレベルでの不妊治療を提供します。この開設記念シンポジウムを5月11日に行います。このシンポジウムにも、参加いただければ幸いです。

## 贈ることば

皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大に入学されました。奈良医大で大きな能力を身につけていただきたいと思っています。大きな能力を身につけられるかどうかは皆さんの心がけ次第です。挑戦する人になろうとするのか、挑戦する人にあれこれ言う人になるのかでは卒業時点で大きな相違が出てきます。

もし皆さんが「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

再度述べます。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」

本日は本当におめでとうございます。

# 令和6年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和6年度は、第3期中期目標の最終年度となり、中期目標の確実な達成、中期計画の遂行のため、引き続き必要な予算については県等からの支援を活用するとともに、病床運用の平常化をふまえた病院収入の増等を前提とした予算編成を行いました。

予算規模については、人件費や診療経費等の増加が見込まれ、令和5年度の709.9億円と比較して35億円増の744.9億円となりました。

令和6年度の主な取組としては、オートファジー・抗老化研究センターや戦略的医療情報連携推進講座の設置をはじめとし

た研究総合力の充実、病院経営の改善化に向けたコンサルティング、学内ネットワークをはじめとした各種システムの更新や第3期中期計画にある「良き医療人の育成」、「県内基幹病院として機能の充実」など、法人の将来を見据えた取り組みを引き続き行います。

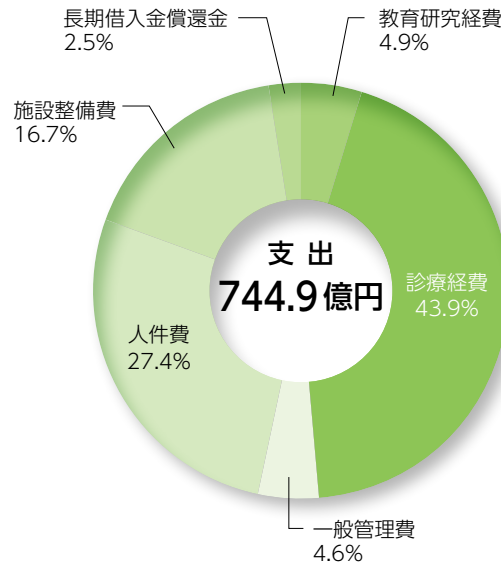
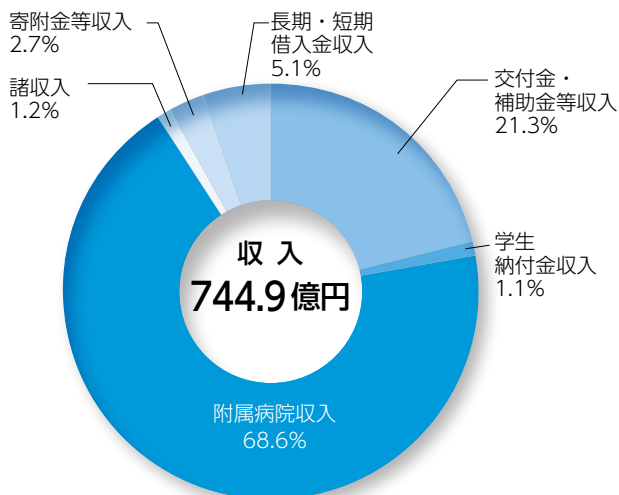
また、新キャンパス開学に向けた準備など、新キャンパス移転に向けた取り組みも継続して実施します。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

## 令和6年度予算の内容

項目	予算額	構成比
<b>収入</b>		
法人が自ら得た収入 (自己収入)	527.8億円	70.9%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	510.4億円	68.6%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.3億円	1.1%
その他の収入 (諸収入)	9.1億円	1.2%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	159.0億円	21.3%
県からの支援 (運営費交付金等)	51.9億円	7.0%
国等からの支援 (補助金収入)	107.1億円	14.3%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	19.9億円	2.7%
借入金 (長期借入金等収入)	38.2億円	5.1%
<b>収入計</b>	<b>744.9億円</b>	<b>100.0%</b>

項目	予算額	構成比
<b>支出</b>		
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	222.6億円	29.9%
職員への給与の支払い (職員給与)	198.0億円	26.6%
退職手当の支払い (退職手当)	6.2億円	0.8%
借金の返済 (長期借入金償還金)	18.4億円	2.5%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	398.0億円	53.4%
大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	36.6億円	4.9%
附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	327.1億円	43.9%
法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	34.3億円	4.6%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	124.3億円	16.7%
<b>支出計</b>	<b>744.9億円</b>	<b>100.0%</b>





## 令和6年度予算の主要事業・新規事業

### 地域貢献

適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上

- 県立医大医師派遣センターの運営  
● 県費奨学生配置センターの運営  
39,771千円 (R5 39,725千円)  
医師配置の一元的な運営体制のさらなる整備、県費奨学生の地域配置などの支援
- 県民健康増進支援センター運営費  
18,590千円 (R5 18,590千円)  
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供
- ドクターヘリ運航推進事業 306,100千円 (R5 275,820千円)  
ドクターヘリ運航にかかる委託経費等
- 奈良医大在宅医療支援センター運営事業  
20,000千円 (R5 20,000千円)  
地域包括ケアシステムの構築に向けたセンターの運営に要する経費

### 教育・研究部門

学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実

- 良き医療人育成推進事業 45,829千円 (R5 45,864千円)  
豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、最善の医療提供を実施し続けようとする強い意志を持った医療人の育成
- 医師・患者関係学講座事業 33,000千円 (R5 33,000千円)  
医師としての人間性を育むための支援を行う講座の設置・運営にかかる経費
- 戦略的医療情報連携推進講座事業(共同研究) 42,000千円  
医療DXの進展に対応するため、医療情報に関する研究と人材育成を推進するための講座の設置・運営にかかる経費
- オートファジー・抗老化研究事業 53,000千円  
神経系を起点とするオートファジー・寿命制御ネットワークの解明に関する研究に要する経費
- 重点研究推進事業 22,260千円 (R5 22,260千円)  
血栓止血の制御に関する研究、画像下での低侵襲医療(IVR)に関する研究に要する経費
- 教務システム・図書館システム更新 81,441千円  
現システムの不足機能を改善し、利便性を向上

### 診療部門

患者サービスの向上、病院機能の充実

- 電子カルテシステム更新準備及びネットワーク機器更新 381,680千円  
令和8年度の電子カルテシステム更新に向けた検討、ネットワーク機器の更新
- がんゲノム医療拠点病院機能強化 21,900千円  
がんゲノム医療拠点病院としてエキスパートパネル検査を実施するとともに県下の病院と連携を強化(令和5年3月指定)
- 病院施設の各所改修 323,400千円 (R5 366,300千円)  
病院機能の維持・向上を図るための施設 (B棟3階屋上防水、C棟乗用エレベータ更新、C棟2階サーバー室空調機更新等)の各所改修を実施

### まちづくり

新キャンパス

- 新キャンパスの整備及び開設準備 9,992,137千円 (R5 12,500,000千円)  
新キャンパスの新築工事、造成工事、継続整備検討などにかかる経費

### 法人運営部門

法人組織の円滑な運営・福利厚生充実、事務の合理化の推進

- 学内ネットワーク更新事業 473,700千円  
現キャンパスのネットワーク機器の更新及びセキュリティの向上、並びに新キャンパスのネットワーク機器整備を実施
- なかよし保育園の運営 146,822千円 (R5 143,096千円)  
職員の保育ニーズに対応するため、運営委託、病児保育委託を実施
- 耐震対策事業(大学) 338,200千円 (R5 712,715千円)  
耐震性能が低い施設(基礎医学棟、看護学科棟、第二臨床講義棟)の応急対応を行うための経費
- 人事管理の適正化・効率化 41,116千円  
長時間労働医師に対するweb面接指導の実施、その他人事管理の適正化・効率化に向けたシステム改修
- 中期計画策定事業 5,000千円  
第4期中期計画(R7～R12)の策定

# 退任の挨拶



解剖学第二 教授 和中 明生

2002年4月から22年間にわたり奈良県立医科大学の多くの教職員の方々にお世話になりました。全力で解剖学の教育と神経系の研究に従事して参りましたが、果たして期待に応えられたかは甚だ心許ないところではあります。しかし常に「奈良県立医科大学の和中明生」から日本、世界の人々に向けて発信しつづけてきたつもりですし、この22年間は私の人生の最も核となる時間でした。教え子諸君には洋々たる未来を、大学には更なる飛躍と発展を祈念しております。有り難うございました。



口腔外科学 教授 桐田 忠昭

私が本学の口腔外科学専攻の最初の大学院生として入学し、お世話になってから早41年が経過しました。また、口腔外科学講座の2代目教授として就任したのが2002年4月でしたので、教授在任期間も22年ということになります。本年3月末を持って定年退任となりました。私は長らく口腔悪性腫瘍の診断と治療を専門とし、臨床及び基礎研究を教室の主要な研究テーマの一つとして行ってきました。教室づくりを含め、どれほどできたのかは分かりませんが、全国的にも一目置かれる存在となり、各主要学会の中核でも長年働かせていただき、ここまでやって来られたのは、多くの方々、医局員のお陰であると感謝しています。本学の益々のご発展を祈念いたします。有難うございました。



眼科学 教授 緒方 奈保子

2010年に赴任してから、臨床・研究・教育と何が今一番良いのか常に模索してきたように思います。患者さんに満足してもらえる医療を目指し、手術は一般的な白内障手術を基礎として、網膜硝子体手術はトップレベルになったと自負しています。糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など網膜研究を進めるとともにコホート研究(藤原京スタディ、平城京スタディ)に参加させていただき、視力と認知症、白内障と生体リズムなど眼が全身に及ぼす影響を明らかにし、目の重要性を示すことができました。今までご支援ご指導いただいた学内外の多くの方々に深謝申し上げます。



成人慢性期看護学 教授 田中 登美

平成31年4月から5年間、教育、研究、臨床に当たらせていただきましたが、この3月末で退任します。ご指導、ご支援、ご協力いただきましたみなさまに心から感謝申し上げます。

特に、看護学研究科「がん看護専門看護師コース」の開設において、がん関連の講座の先生方、看護部のみなさま、教育支援課の方々から多大なご支援をいただき、2名のがん看護専門看護師を輩出することができました。また2年間、看護教育部長として看護学科のみならず医学部全体の教育や大学運営にもかかわらせていただく機会をいただき、多くの学びを得ることができました。ありがとうございます。そして、奈良県立医科大学の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



公衆衛生看護学 教授 城島 哲子

2004年に地域看護学領域に着任し20年間勤務しました。講座の変遷としては、2013年に保健師選択制を導入、2015年には在宅看護学領域を分離、独立、公衆衛生看護学領域に名称を変更しました。質の高い保健師教育を目指して、疫学・予防医学講座、循環器内科学講座、腎臓内科学講座、口腔外科学講座、地域医療学講座と医学科の先生方の協力を仰いでいます。おかげさまで在任中に100名余の保健師を送り出しました。卒業生たちの活躍を誇りに思っています。奈良医大と看護学科のますますの発展をお祈りしております。

# 就任の挨拶



総務・経営担当理事 事務局長 松山 善之

この度、4月1日付で理事(総務・経営担当)・事務局長を拝命いたしました。

私は、30数年にわたる県庁勤務の約3分の1の期間、福祉医療行政に携わってまいりました。その間、県立医大とは医師・看護師確保等の様々な施策で連携させていただき、支援していただきました。また、最近では3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染拡大への対応において、県立医大には県民の命と健康を守るため、多大なご貢献をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、新キャンパスの移転整備を皮切りに、県立医大を中心としたまちづくりは大きく展開していこうとしています。このような重要な局面で理事に就任することとなり、重責に身の引き締まる思いです。

もとより微力ではございますが、建学の精神である「最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献する」を実行するため、誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存ですので、関係各位にはご指導・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



教育・研究担当理事 副学長 医学部長 附属図書館長 嶋 緑倫

この度、医学部長に再任されました。第2期では医学教育分野別評価の受審のために全学一団となって教育改革に取り組みました。Active learning、診療参加型臨床実習の充実や教育プログラムの評価等、まだまだ課題があり、引き続き皆様と協力して改善していきたいと思っております。研究面では、本学の論文数や公的研究費の獲得も増加傾向にありますが、より高いレベルを目指し、支援活動を推進していく所存です。また、研究環境の整備も重要な課題と認識しています。今後とも、皆様のご協力・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



医療担当理事 副学長 附属病院長 吉川 公彦

この度、令和6年4月1日付で医療担当理事、附属病院病院長3期目を拝命致しました。令和2年4月1日、病院長1期目拝命直後に、当院はコロナ重点医療機関として、県から150床のコロナ病床確保を求められました。私は細井理事長・学長を本部長とするコロナ感染対策本部の下に設置された「病院部会長」を拝命し、多職種に亘る情報共有と関係各位の迅速な対応により、この当院設立以来の未曾有の危機を何とか乗り越えることができました。改めてこの場をお借りして皆様にお礼を申し上げます。

今後は県内唯一の特定機能病院としてまた拠点病院として高度・先進医療を安全に提供できる体制づくり、地域医療機関との相互連携による地域医療構想の実現、働き方改革の推進と環境整備、24時間ERを含む救急医療の実践、臨床研究の推進、良き医療人の育成等を目指して、法人と連携して病院運営にあたる所存です。教職員の皆様ならびに同窓の方々におかれましては、より一層のご支援・ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



研究部長 医学研究科長就任挨拶 吉栖 正典

この度、4月1日付で研究部長、医学研究科長に再々任されました。本学は現在、キャンパス移転を間近に控え、長期的展望に立って研究体制を構築していく段階にきています。本年3月には研究戦略推進本部会議にて、「総合研究棟グランドデザイン策定委員会」の提言がなされました。その中で、本学の研究において総合研究棟が担うべき役割の方向性として1) RI実験施設管理の至適化、2) 動物実験施設の機能向上と適正強化が謳われています。その他の体制・環境整備や機能強化も含めて本学の研究力が向上し、大きな成果が得られることに貢献するため全力で取り組む所存であります。これからの2年間、すべての教職員の皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



医学科長 伊藤 利洋

この度、医学科長を拝命いたしました。医学科長の任務は医学科の教育と入試にあります。教育面においては、医学教育分野別評価で求められている参加型教育をより推進し、教養・基礎・臨床における水平・垂直統合型講義の促進、そして本学が目指す良き医療人のマインド醸成に努めたいと思っております。入試面においては、本学のアドミッションポリシーを意識しながら、時代に即した入試システムを構築してまいりたいと思っております。本学の発展に最大限尽力して参る所存です。そして教育・入試制度の充実には皆様方のご協力とご理解が不可欠でございます。どうぞご指導、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 就任の挨拶



看護学科長 看護学研究科長 川上 あずさ

この度、看護学科長、看護学研究科長に再任されました。前任の2年間は、保健師助産師看護師養成に関する指定規則の改正に伴う教育課程の変更、看護学教育評価受審、看護学研究科博士後期課程の開設申請と看護学科及び教育の整備を進めてまいりました。お陰様で博士後期課程は、4月5日に第1期生を迎え授業が始まりました。新キャンパスへの移転、教育評価の再受審と課題は尽きませんが、看護学科の充実と発展のために、尽力していきたいと考えております。引き続き皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



教養教育部長 酒井 宏水

医学科・看護学科の一般教育組織を統合し、教養教育部門が新設され10年目を迎えました。新入生対象の「奈良学」をはじめとする医看合同科目は、本学の特色ある科目として定着してきました。さて、新キャンパスでの授業開始がいよいよ1年後に迫ってきました。今年度後半からの移転作業に始まり、教育・研究・入試業務を円滑に移行させ、そして新入生がキャンパスライフを支障なく始められるよう、関係部署の皆様と綿密に計画を立てて、進めてまいりたいと思います。変化の多い時期に教養教育部長に再任され、責任の重さを感じています。引き続き皆様のご支援とご協力をいただきたく、何卒宜しくお願い致します。



基礎教育部長 堀江 恭二

この度、基礎教育部長(再任)を拝命いたしました。過去4年の任期中に、多くの学生と対話の機会を得ましたが、その過程で、自分が持っていた学生像が、多様な学生像の一断面に過ぎなかったことを強く認識し、先入観を排除して教育に臨むことの大切さを感じています。基礎医学の開始時は、全国的な統計から、6年間の学生生活の中で最も学業に躓きやすい時期と言われており、本学も例外ではありません。学生との対話と教職員の皆様との連携のもとに、医学教育の充実に努める所存です。よろしくお願いいたします。



臨床教育部長 庄 雅之

この度、臨床教育部長を拝命致しました。今日、医学教育の重要性が広く認識され、常に変革を求められています。本学においても診療参加型実習などの様々な課題に対して、田中康仁先生の下、多くの新たな取り組みが行われてきました。田中先生のご尽力を引き継ぎ、嶋医学部長、若月教育教授、教育開発センター、教育支援課とも緊密に連携を取りながら、学生や将来の患者さんにとって、少しでも本学の医学教育がより良いものとなるように微力ながら精一杯努力させて頂く所存です。臨床の先生方、看護部、病院スタッフ、事務部門の皆様におかれましては、今後も温かいご協力、ご支援、ご指導のほど、何卒宜しく申し上げます。



看護教育部長 五十嵐 稔子

この度、看護教育部長を拝命いたしました。看護学科は、新たなアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを今年度から導入し、学年ごとの到達レベルの設定や新しい評価方法も取り入れました。さらに今年度は新キャンパスへの移転を進める年になります。また、博士後期課程もスタートしました。ソフト面・ハード面ともに進化しつづけている看護学科において、学生や院生が知識・技術の修得だけでなく、自律した看護専門職・研究者としての深い人間性を養えるよう、教職員の皆様と連携をしながら、教育環境の充実に尽力していきたいと考えています。ご協力を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。

## 1. スタートアップ・エコシステム共創プログラム

- (1) 2024年1月12日、JSTのスタートアップ・エコシステム共創プログラムの2023年度採択プラットフォームが決定し、京都大学を主幹機関とするプラットフォーム「関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)」が採択されました。本学はスタートアップ創出共同機関として本プラットフォームに参画し、プラットフォームと連携しながら人材・知・資金が循環するエコシステムを構築し、奈良医大発の継続的なスタートアップの創出に取り組んでいきます。スタートアップ創出共同機関には、他に大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良女子大学、兵庫県立大学、関西学院大学、滋賀大学、滋賀医科大学が参加しております。
- (2) 同プログラムにおける支援は、2023年度～2029年度の7年間、支援額の上限約70億円(直接経費、更に間接経費30%が支援されます。)という大型プログラムになっております。KSACでは、スタートアップ・エコシステム共創プログラムでの研究開発課題の採択数200件程度を予定しています。研究開発課題毎の支援額は応用研究(ステップ1)が500～1000万円、概念実証・スタートアップ組成(ステップ2)が6000万円となっております。本学からも数多く採択されるよう支援致しますので、積極的にご利用願います。

## 2. 奈良医大発ベンチャー

### (1) モルミル株式会社

2023年7月7日、京都市、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)等が連携し、優れたビジネスプランを持つスタートアップ等による全編英語のピッチイベント「HVC KYOTO 2023 DemoDay」が京都リサーチパークで開催されました。多数の応募から勝ち残った14社が発表、その中からモルミルはKRP(京都リサーチパーク)賞に輝きました。

2023年9月23日、「バイオテックグランプリ2023」がセンターオプガレージ(東京都墨田区)にて開催されました。336の応募数の中から選ばれたファイナリスト12チームがプレゼンを行い、モルミルが最優秀賞と企業賞を受賞しました。



バイオテックグランプリ2023(ホームページより抜粋)

「関西テックプランター」は、関西エリアにおいてベンチャーエコシステムの構築とインバウンドグローバルイノベーションを加速させる取り組みです。2023年11月25日、記念すべき第1回関西テックプランングランプリにおいて、森英一朗先生が基調講演で、モルミル設立の経緯やコア技術を紹介しました。



森英一朗先生による基調講演

### (2) MBTリンク株式会社

予防医療事業を目指す堀江貴文氏との対談が、YouTubeホリエモンチャンネルにアップされました。今回の堀江貴文氏との対談は、北海道での病院サミット・更別視察時の講演にて、取組内容やMBTリンクヘルスケアシステムに深く興味を持たれた事務局の方より対談の打診があり実現したものです。



堀江貴文氏と梅田智広先生との対談(ホリエモンチャンネルより抜粋)

### (3) イノベーションストリーム KANSAI 7.0

2023年12月19、20日、「イノベーションストリーム KANSAI 7.0」がグランフロント大阪北館のコングレコンベンションセンターで開催されました。奈良医大は、①奈良医大のホットなシーズ紹介、②ポスター&チラシによる奈良医大発ベンチャー6社の紹介、③モルミル(株)森英一朗先生による「大学発ベンチャーの挑戦：奈良から世界へ」の演題でのセミナー講演で、来場者に活動をPRしました。



奈良医大発ベンチャー6社の紹介



講演する森英一朗先生



# 国際交流センターだより vol.15

## 2023年度 海外リサーチ・クラークシップ報告

2024年1月4日から3月5日まで、医学科2年生8名が海外の研究室に研究留学しました。日本とは全く違う環境で、海外の研究者たちと共に過ごした時間は、彼らにとってかけがえのない貴重なものとなったことでしょう。この体験を忘れず、今後の研究に活かし、また、他の学生や後輩とも、是非共有してほしいと思います。



2023.12.21の壮行会にて

## 留学報告

### 医学科3年 大平 雅也

留学先：University of Texas Health San Antonio

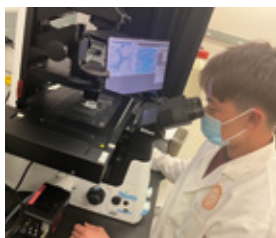
私は、The University of Texas Health Science Center at San Antonio に派遣させていただきました。

研究に関しましては、成果主義ということに感銘を受けました。多くの研究者の方が、朝早くに来て同時進行で実験を行い、隙間時間には取得したデータの解析を行っておられました。そのため、私もそのように時間を有効活用して自発的に研究に取り組んでいました。

生活に関しては、滞在先のホストの方と研究室の先生方に支えられました。家事やTexasで注意すべきことを丁寧に教えてくださいました。また、人々との交流で感じたことは、Texasの方が親切だということです。

困っていたら、助けて下さる方が多かったように思います。

今後の意気込みとしては、引き続き勉学と研究に全力で取り組み、今回の経験を活かしていくように努めてまいります。



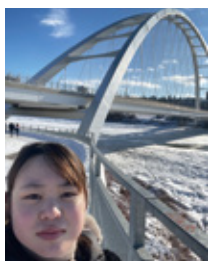
$\beta$ -gal活性が上昇したglioblastoma細胞を顕微鏡で観察する様子

### 医学科3年 小西 菜々子

留学先：University of Alberta Faculty of Medicine and Dentistry

カナダ、アルバータ州、University of AlbertaのYokota Labでデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療であるエクソスキップ治療についての研究を行いました。指導者の方は論文執筆前の忙しい中で、実験の手技やエクソスキップ治療について丁寧に教えてください、これからの研究活動に役に立つことを多く学ばせていただきました。最終日にはラボミーティングにてプレゼンテーションの機会を与えてくださり、その準備を通してよりよいスライドの作り方も学ぶことができました。

カナダで生活する中で自分の英語の拙さを実感し、英語学習へのモチベーションが更に上がりました。また、現地の人々と日本人の気質の違いを感じられて興味深かったです。実習で得た経験を活かしてこれからの医学の勉強や研究に励んでいきます。

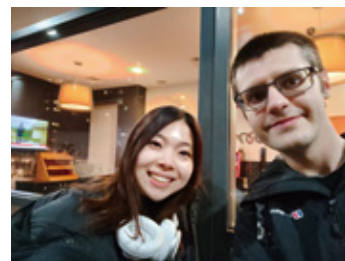


ウォルターデール橋にて

### 医学科3年 伊藤 晴加

留学先：University of Leeds

私は、イギリス、リーズ大学のAstbury Centre for Structural Molecular Biologyで約2ヵ月間アミロイド凝集メカニズムに関わる研究を行わせていただきました。現地では議論を交わす場が非常に多く、日々理解を深めながら新しいアイデアを生み出す環境が整っていました。また、最先端の生物物理学的機械が揃っていたため、私が多くの機械を扱えるよう、現地の方がわざわざ実験のスケジュールを変更してくださりました。通常学部生を受け入れない研究室で計約15種類もの機械を扱わせていただいたことを非常にありがたく感じるとともに幸運なことだったと思っております。派遣に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。これからの研究も精進してまいります。



大学からの帰路にてラボのポストドクと

### 医学科3年 和出 陽南

留学先：University of Michigan Medical School

私は鎌田信彦先生の研究室で、口腔細菌の腸管異所定着について研究させていただきました。実験手技の習得のみならず、実験結果に対するDiscussion及びプレゼン作成の際に気を配らなければならない点についても学びました。また、講演会やラボミーティングにも参加し、自分の未熟さを思い知らされると同時に目指すものを見つけた機会にもなりました。今回の経験をじっくり振り返り、今後自分がどのようになりたいか、またその目標を達成するためにやるべきことを考えて行動に移していこうと思います。2年生という早い段階で海外研究を体験できたことは、非常に嬉しいことですし感謝しております。リサクラで得たことを日本での研究活動にも大いに活かせるように精進して参ります。このような貴重な機会をくださり本当にありがとうございました。



ラボメンバーと



## 留学報告

### 医学科3年 有野 公人

留学先：National Taiwan University

私はリサーチ・クラークシッププログラムにおいて、国立台湾大学附属病院外科科で腹腔鏡脾臓摘出術に関する臨床研究を行いました。私が臨床研究を始めるにあたって、台湾大学の楊卿堯 (Ching-Yao Yang) 先生は研究の基礎から親身になって教えてくださいました。また、他にも楊先生の手術見学をさせていただく等、貴重な経験もできて、将来のことについてより深く考える機会にもなりました。

病院での研究活動がなかった週末や祝日の日に、私は主に台北市内の観光に行っていました。台湾には様々な観光施設があって、色々なところに行くことができ楽しかったです。

最後に、本プログラムに携わっていただいた方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございます。



手術室で傷を縫合している様子

### 医学科3年 佐久間 隼人

留学先：National University of Singapore

私は National University of Singapore の Dr.Jiang Jianming の研究室にて約2か月間実習をさせていただきました。想定外のことが多く起こった実習でしたが、ラボの親切な研究員の方々が必死にサポートしていただいたおかげで無事に実習を終えることができました。実習前まではミスすることを恐れて自分の意見をあまり言わず、教官の方に頼りきりの研究姿勢でしたが、実習中は思い切って積極的にアイデアを出し、試行錯誤をする姿勢に変えてみたところ、自分ができないと思込んでいたことも出来るようになりました。シンガポールでの暮らしも非常に刺激的で、休日はしっかりと外に出て休息をとることで、オンとオフの切り替えの大切さを学びました。このような貴重な機会を与えて頂いたリサーチ・クラークシップの関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



研究室にてラボのメンバーと

### 医学科3年 平岡 崇秀

留学先：KU Leuven Campus Kulak Kortrijk

今回海外で2か月間実習を行ったことで他ではできないような貴重な経験を得ることができ、研究者としてだけでなく、人間的にも大きく成長することができました。日本人が周りにいない環境で長期間過ごすのは初めてのことで、実習前はとても緊張していましたが、実習先の方々がとても優しくおかげで研究もヨーロッパでの日常生活も常に楽しめました。この2ヶ月間研究だけに没頭できたことで、幼い頃から抱えてきた医学研究への意欲がより掻き立てられ、これからもより真摯に研究に取り組みたいと思っております。今回の実習で関わった多くの方々への感謝を忘れずに、これからも立派な医師・研究者になるため、日々自己研鑽を重ねていきます。



ラボのメンバーと

### 医学科3年 森田 大智

留学先：National Taiwan University

私は台湾の National Taiwan University における胸腔内科教室で約2か月間勉強させていただきました。普段の学生生活とは異なる、世界の最先端である環境で1日のほとんどを研究に費やす生活は、私に多くの技術と知識を与えてくれました。また、台湾での生活は、日本とは異なる環境のもと、刺激にあふれ、異文化への理解を深める機会となりました。さらに、初めての一人暮らしは、私を精神的にも成長させてくれました。私は、本学薬理学教室の皆様、台湾の研究室の方々をはじめ、今回のプログラムにかかわったすべての人たちへの感謝を忘れずに、今回の留学で学んだことを生かし、チャレンジ精神を忘れることなく研究に従事し、医療人として成長し続けたいと思います。



派遣先の方々と交流を深めて

## MESSAGE

### 医学部長 嶋 緑倫

今年度の海外リサーチ・クラークシップが無事に終了したことを喜ばしく思います。皆さんは事前に十分に準備をして留学に臨み、現地ですっかりと研究に取り組んでいただきました。さらに、海外の研究者と積極的に交流を深め、自らの新たな可能性を発見する機会になりました。レポートから海外リサーチ・クラークシップがいかに有意義なものであったかが伝わってきます。この経験をしっかりと胸に刻み、皆さんの夢の実現に向けて前進してください。



### 生理学第二 教授 堀江 恭二

2か月に及び海外研修、お疲れ様でした。言語も文化も異なる環境下で、研究の一躍を担い、かつ、責任を持って役割を果たすのは、容易ではなかったことと思います。楽しい思い出や、ほろ苦い経験が交錯する中で、ひと回り成長してもらう一度世界に挑戦したいと思われた方も多いのではないのでしょうか。この経験で得たものを温めながら、これからの大学生活を有意義なものにしてください。皆さんのこれからの活躍を、応援しています。



### 未来基礎医学 准教授 森 英一朗

海外リサクラのプログラムが2023年度から再開になり、8名の学生がそれぞれの派遣先で実習に取り組みました。全員が無事に帰国して下さったことに、まず安堵しております。この経験が、今後のキャリアの中で生きてくることを期待しております。また、新規の派遣先研究室のご紹介や、事前トレーニングや事後のフォローアップでの御支援を頂いた関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。引き続き、より良いプログラムにするべく、取り組んで参ります。



# 国際交流センターだより vol.15

## 「Meet the President」を開催しました（1月23日）

理事長・学長 細井 裕司

1月23日、アメリカ・ドイツからの留学生2名を迎えて「Meet the President」を開催いたしました。この会は今回で2回目の開催で、本学の国際交流・国際理解を一層推進するとともに、留学生との懇親を深める場として実施しています。懇親会では、いちご大福がふるまわれ、各国の医学部事情や日本での生活について話を聞いたり、なごやかな雰囲気の中歓談を楽しみました。

ミシガン大学のDavidさんは、本学とミシガン大学が協定を結んでおり日本の総合医療に興味があって来日したとのこと。また、ドイツ・ゲッティンゲン大学のMaxさんは、ドイツでは臨床実習先に海外を選ぶことができ、日本文化に興味があったため留学を決めたとのことでした。それぞれの学生が、本学で有意義な時間を過ごせることを願っています。



中央左がDavid、右がMax



### David Sidhom (ミシガン大学)

(総合診療科 2024.1.15 ~ 1.26)

During my two-week rotation in Nara, I had the honor of meeting many fantastic people! Dr. Hiroshi Hosoi shared with me some of the many inventions he has created including a device to help those with hearing loss, which I believe will have a strong positive impact on the community. I was amazed by the innovation at the University as Dr.Toshihiro Ito shared a novel lozenge that can protect against COVID-19. It is clear that NMU focuses on advancing medicine with a forward thinking and creative approach. There is also a focus on creating partnerships in the community, creating strong relationships between doctors and the people they serve. I am grateful to have been trained by so many impressive individuals and to call them my friends!

### Max Schmiedeknecht (ゲッティンゲン大学)

(循環器内科、消化器・代謝内科、腎臓内科 2024.1.15 ~ 3.8)

I deeply appreciate the warm welcome from Nara Medical University. It was a great honor to be invited to the "Meet the President" event. I listened to the history of Kashihara with gratitude and was intrigued by the recent research developments at Nara Medical University. These promise a strong impact on daily life, as the main goal of clinical research should be, including the cartilage-conducted hearing device for public facilities to communicate with hearing-impaired patients, developed by Prof. Hosoi, and the innovative SARS-CoV-2 protective candies introduced by Prof. Ito. The future development of the Nara Medical Campus is exciting, and I look forward to seeing the new site. I will happily recommend Nara Medical University to German students, doctors, and researchers. Thank you for this brilliant time! ありがとうございました。

## プリンスオブソクラー大学との協定締結

2023年4月のPSU一行の来学以来、教職員・学生の交流を促進すべく話し合いを続けてきました。その結果、2024年1月、両大学の学術交流発展にむけての協定締結に至りました。短期の留学先として興味のある方は、是非ご検討ください。



来日時集合写真

## 令和5年度 第3回 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

令和5年度第3回 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の2名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

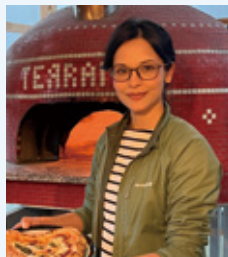
所属(科目)	職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	尾崎 大輔
輸血部	診療助手	齋藤 健貴



## 大学院医学研究科博士課程を修了されました

大学院医学研究科博士課程 脳神経機能制御学 修了 Riju Dahal

After spending 4.5 years studying neurosurgery in Japan, I'm filled with gratitude as I prepare to leave. My time here has been life-changing, both personally and professionally. I've loved immersing myself in Japanese culture. From the beautiful cherry blossoms to the bustling energy of big cities, I've grown to appreciate Japan's way of life. The kindness and hospitality of the people here have made me feel at home, and I'm thankful for their warmth.



In my department, I've learned a lot. I've been lucky to study under brilliant neurosurgeons who have taught me to excel. Their guidance and the collaborative atmosphere have shaped me in professional and personal endeavours. Outside of my studies, I've enjoyed exploring Japan. Whether it's skiing/snowboarding, tea ceremonies or trying new foods, each experience has taught me something new about Japanese culture.

As I move on to the next chapter of my life, I'm grateful for the memories and friendships I've made here. Japan will always hold a special place in my heart, and I'll forever cherish my time here. Arigatou gozaimasu.

脳神経外科学 講師

田村 健太郎 (現:奈良医療センター勤務)

Dr. Rizu Dahal は、本学で初めての日本政府奨学金留学生(国費留学生)として、2019年10月に来日され、4年間大学院生としててんかん外科治療を学び、術中皮質脳波に関する研究で無事 Ph.D. を取得されました。4年半分の奨学金獲得のための審査は大変でしたが、本学での経験が、



母国ネパールで苦しむ多くの難治てんかん患者を救うことにつながることを考えると、割に合ったと思います。今後の活躍に期待します。

## 「第10回 英語で学ぶ医学・看護学セミナー」(医学科2年生対象)を開催しました(1月22日)

本学では、学部教育時から「英語で医学や看護学を学ぶ」機会の拡充を図るため、年に数回の英語セミナーを開催しています。

学生からは、「少し難しかった」という声も聞かれましたが、みんな真剣に講義に耳を傾けていました。



モントリオール大学(カナダ)

Associate Professor Gareth Lim, Ph.D

It was an honor to be able to share my research group's work with you, and I hope that you gained an appreciation of the complexities involved in the growth and development of fat cells and how obesity develops. There is still a lot that we do not know in terms of how to treat obesity, and this is partly due to our poor understanding of the factors that influence the development of fat cells. However, we are slowly making progress. I hope that my presentation may inspire you to engage in obesity-related research in the future or pursue endocrinology as your clinical speciality.

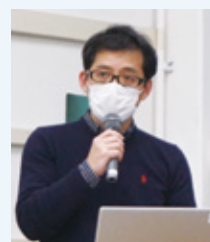


It is important to also extend my sincere thanks and appreciation to Professor Shuhei Nakamura for the generous invitation to visit Nara Medical University, as well as the team in the Nara Medical University International Center for assisting with my visit and preparing for my lecture.

A career in medicine with the goal of helping patients is a great opportunity and aspiration, and I would like to wish all of you great success in these important and formative years during your medical training.

生化学 教授 中村 修平

モントリオール大学の Dr. Gareth Lim 博士には AMED interstellar initiative beyond グラントのサポートのもと行なっている共同研究の打ち合わせのために来学いただくことになっており、この機会を活用し、ご講演をお願いしました。最先端の研究成果をご発表いただき、学生にとっては大きな刺激になったのではないのでしょうか。医学、生命科学分野での公用語は英語で、論文を読み書きするだけでなく、学会等では自身の研究を英語で発表し、かつ深いディスカッションができる能力が求められます。一朝一夕には身につかないので、日頃から意識してトレーニングすることをお勧めします。ちなみに私は留学前に好きな外国映画やドラマを毎晩英語字幕で繰り返しみて鍛えました。やり方は人それぞれなので、自分にあったやり方を見つけてみてください。





## 図書館ウェビナー動画のご紹介

新入生のみなさま、新入職員のみなさま、ご入学・ご入職、誠にありがとうございます。

新年度に行われた学内のオリエンテーションもひと段落し、いよいよ実際に図書館のサービスやオンラインリソースなどをご利用いただいている頃かと思えます。オリエンテーションで紹介した使い方を忘れてしまった方、オリエンテーションを受けられなかった方、そしてもちろん新入生以外のみなさまも、図書館ウェビナー動画をご活用ください。

図書館では「図書館ウェビナー」と題して、Zoom を用いたオンラインセミナーを開催しております。内容は、図書館の使い方、電子資料の使い方、PubMed・医中誌 Web の検索法など、基本から実践まで多岐にわたります。

開催日時は主に水曜日の午後5時30分から30分間となっております。テーマにより増減はありますが、毎回少なくとも数名以上はご参加いただいております。興味をお持ちでもご都合が合わない方々からのご要望にお応えして、これまで開催してまいりました図書館ウェビナーの動画を公開しております。

学外からスマートフォンでもご視聴いただけますので、ぜひ一度、試してみてください。

### ご利用方法

以下3通りのうち、アクセスしやすい方法でご利用ください。

- ① 統合IDアカウントでMicrosoft 365にログイン後、Sharepoint にアクセス → 「図書館ウェビナー」
- ② スマートフォンから右の二次元バーコードでアクセス → 統合IDでログイン
- ③ 当館トップページ「学習サポート」→ 「図書館ウェビナー動画」 → 統合IDでログイン



### 図書館の使い方

図書館ご利用法について、基本中の基本から易しく解説。

### 電子資料の使い方

本学で契約している電子リソースの概要、文献データベース・電子ジャーナル・臨床支援ツールなどの詳細なご利用方法。

### PubMed

「PubMed って何?」という方のための基礎編から、熟練されたベテラン向けの応用編まで、段階別に解説。

### 医中誌 Web

ご自宅など学外からのリモートアクセス方法、基本から応用までの検索法など。

### その他のツール

PubMed・医中誌 Web 以外のデータベースご利用法、学術雑誌についての調べ方など、各種ツールをご紹介します。

### ウェビナー資料

パスファインダー（資料の探し方・調べ方についてのマニュアル）、ウェビナーで使用したスライドなど参考資料を公開。

# 先端医学研究支援機構だより

## 研究力向上支援センターからのお知らせ

### 重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、重点研究 2016 推進計画に定める重点研究課題として、「地域に根差し地域と歩む研究」「日本を世界を牽引する研究」「良き医療人を育てる研究」を推進しています。

このたび、11月27日、12月26日、1月30日、3月8日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

#### ●地域に根差し地域と歩む研究

「術後機能障害の発生とその予防的介入に関する研究」	麻酔科学	教授	川口 昌彦
「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾
「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地域包括ケア構築に資する実態調査」	循環器内科学	助教	上田 友哉
「MBT (Medicine-Based Town) 2023年度の取組み報告と今後の展望」	MBT 研究所	コーディネーター	塩山 忠夫

#### ●日本を世界を牽引する研究

「IVR 研究センターにおける医療機器開発～医師主導治験・特定臨床研究を目指した進捗状況～」	放射線診断・IVR 学	教授	田中 利洋
「血栓止血の制御に関する研究」	血栓止血先端医学	准教授	辰巳 公平

#### ●良き医療人を育てる研究

「医育研究」	教育開発センター	教育教授	若月 幸平
--------	----------	------	-------



麻酔科学 川口昌彦 教授  
疫学・予防医学 佐伯圭吾 教授  
循環器内科学 上田友哉 助教  
MBT 研究所 塩山忠夫 コーディネーター  
放射線診断・IVR 学 田中利洋 教授  
血栓止血先端医学 辰巳公平 准教授  
教育開発センター 若月幸平 教育教授

## 医学研究支援センターからのお知らせ

### 第1回 RI セミナー報告

3月15日(金)17時から基礎医学棟5階小講義室にて、「第1回RIセミナー」が開催されました。このセミナーはRI(ラジオアイソトープ)を用いた学内利用者の研究を紹介することで、本学RI実験施設を活発に利用していただくことを目的として企画されました。今回は本学薬理学講座の中平毅一准教授に、「RIを用いたミトコンドリアDNAトポロジー解析」というタイトルで講演をしていただきました。中平先生は、「サザンプロット法」という手法を用いてミトコンドリアDNAのトポロジーについて調べる実験を行われ、ミトコンドリアDNAの構造がsuper-coiled(ねじれたDNA構造)なのか、relaxed(ほどけた状態のDNA構造)なのかを電気泳動の移動度の違いにより判別されました。サザンプロット法は、RI(<sup>32</sup>P)を用いた方法とnon-RIを用いた方法がありますが、RIは高感度で先行研究のほとんどがRIを用いた方法であり、RI実験のメリットとして紹介されました。ミトコンドリアDNAのトポロジーは免疫反応にも影響する可能性が示唆されており、実験手技的な問題を克服することで今後も発展が期待される分野であることが分かりました。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、実りの多いセミナーとなりました。



セミナーの様子

中平先生

# 働き方改革だより

奈良医大は特定労務管理対象機関として指定されました (R6.4 ~ 3年間)  
今回は医師の働き方改革に伴い4月から開始した**面接指導**と**代償休息**について解説します  
いずれも医療監視で確認されますので必ず実施・記録の管理を徹底してください



## 面接指導について

特定労務管理対象機関は、時間外労働時間が**月100時間以上**となることが見込まれる医師に対して面接指導を実施することが義務づけられました。

なお、この「時間外労働時間」には外勤先で従事した兼業実績時間も含まれます。

### ▶ 面接指導の実施方法

日程調整・当日の面接・記録は**WEB** (予約システム・GoogleMeet) で行います。  
リモート面接となりますので、プライバシーに配慮できる環境で実施してください。

#### 実施までの流れ

STEP  
1

対象となる医師に  
面接を割り当て

STEP  
2

事前に疲労蓄積度  
チェックリストを回答

STEP  
3

リモートにより  
面接実施

### ▶ 面接指導での確認事項

長時間労働医師の**心身の状況**を聴取し、総合的に評価します。

#### 1. 勤務の状況

業務内容、時間外・休日労働、深夜勤務の頻度・時間、  
勤務間インターバルの確保状況、代償休息の付与状況等

#### 2. 睡眠負債の状況

睡眠時間や日中の眠気

#### 3. 疲労の蓄積の状況

チェックリストの結果や面接指導時の様子を踏まえ、  
疲労の程度、業務や日常生活への影響の有無等

#### 4. 心身の状況 等

心身の健康状況や生活状況

## 面接結果に基づき、**必要に応じて就業上の措置**が講じられます

面接を実施した医師は面接で確認した情報をもとに、長時間労働医師の健康を保持するために必要な就業上の措置について意見書を作成します。

〈就業上の措置の例〉

当直・連続勤務の禁止や制限／就業内容・場所の変更／時間外労働の制限／就業日数や時間の制限／就業禁止



## 代償休息について

予定された勤務間インターバル（9時間または18時間の連続した休息時間）中に、やむを得ない理由により発生した労働（緊急対応）に従事した場合は、その労働時間に相当する時間分を「代償休息」として事後的に付与することが義務づけられました。

代償休息は翌月末までに付与し、付与した日時を出退勤システムに記録します。

### ▶代償休息が発生する例① 勤務間インターバル中の緊急呼出対応

帰宅後、緊急で夜中1時～3時まで呼出対応した。（1時～3時が対象）

### ▶代償休息が発生する例② 勤務が延長し、インターバル限度時間を超過

夕方から緊急手術となり勤務終了が夜中1時となった。（23時30分～1時が対象）

## お知らせ

### ▶各診療科の夜間勤務体制の状況について

夜間勤務体制を見直し・新体制へ移行しました。以下は令和6年4月時点の各科の状況です。

勤務化	循環器内科・消化器内科・消化器外科・産婦人科・精神科・放射線科・麻酔科・救急科・総合診療科/糖尿病内科・総合周産期母子医療センター・ER
宿日直再取得	呼吸器内科・血液内科・感染症内科・脳神経内科・脳神経外科・心臓血管外科・整形外科・口腔外科・眼科・小児科・皮膚科/形成外科・泌尿器科・耳鼻咽喉頭頸部外科・放射線治療科/腫瘍内科・腎臓内科・救急科応援当直

### ▶働き方改革サイトを作成しました

面接指導のマニュアル、医師労働時間短縮計画等を記載しております。ぜひご活用ください。学内HPのリンク、もしくは右の二次元バーコードからアクセスできます。

（統合IDでログイン必要）



働き方改革サイト

人事課研修サイト

Home Pages Documents 仕事でExcelを使いこなす100の極意マスター講座1 仕事でExcelを使いこなす100の極意マスター講座2 ... 編集

☆ フォローしていません

#### ▶労務管理・健康管理（音声スライド）

労働時間・勤務体制について  
追加的健康確保措置 勤務間インターバルについて  
代償休息について  
面接指導について

（参考）時間外労働時間の把握・管理方法について  
（指定様式→）時間外勤務命令簿兼実績簿  
宿日直中の通常労働の取扱いについて  
代償休息の運用方法について  
出退勤システム操作マニュアルはこちら（学内HP）

#### ▶面接指導

（実施医師用）・概要

分割版：うつ病の簡単な構造化面接フロー  
睡眠負債の状況評価のための質問

・操作マニュアル  
分割版：予約チェックの流れ 面接当日  
面接実施後

・操作動画

- ①予約枠登録
- ②予約確認（個別から確認・一覧から確認）
- ③面接当日
- ④実施後結果登録

# 看護部の紹介

## 令和5年度 医学教育等関係業務功労者 表彰

放射線治療室・化学療法室・緩和ケアセンター 看護師 原田 千代子

この度、医学教育等関係業務功労者として文部科学省より表彰いただきまして誠にありがとうございます。

長きにわたり、ここ奈良県立医科大学附属病院で看護師として勤務して参りましたことを、改めて誇りと感じている次第でございます。

日々、医療・看護の進歩・変化に戸惑いながらも、多くの方々に関わらせていただき、時には喜び笑い、時には悩み傷ついた事が、今の自分の糧であり、看護師としても人としても大きく成長させてくれたのだと感じております。

これまでご指導いただきました全ての方々に心より感謝申し上げます。これからも、看護への思いに自信と誇りを持ち、思いを新たに看護に携わり続けられたら幸いです。本当にありがとうございました。



## 7対1病棟にナイトサポーターを導入しました

人事課 徳田 晃一

2023年10月から夜間の看護補助業務を行うナイトサポーターを導入し、現在34名が各病棟で業務を行っています。

今年度から施行されている医師の労働時間上限規制への対策のひとつとして、医師から看護師へのタスクシフトを推進しています。ナイトサポーターの配置により看護職員の負担軽減を図り、より良い看護を提供できる環境整備を目指しています。

導入にあたっては、事前に本学の看護学科生によるトライアルを行い、業務内容や勤務体系、研修内容、運用面での課題がないかを確認しました。引き続き、安全で質の高い医療を提供できるような体制整備を図っていききたいと思います。

## 新しい仲間、ナイトサポーターさん活躍中！

E棟5階北病棟 看護師長 中上 幸

産科病棟では、3名のナイトサポーターの方が配属となりました。医療現場での経験の有無など、それぞれの背景は異なりますが、看護師やその他の職種とも協力しあって日々の業務に取り組んでいます。業務内容は、配膳・下膳を始め、分娩後の分娩室清掃や、患者移送支援など多岐にわたります。また、産科は昼夜問わず分娩があり、いつでも分娩ができるよう準備が必要です。従来から清掃に時間を要していましたが、ナイトサポーターの方が丁寧に環境を整えて下さることで、妊産褥婦の方へのケア時間の確保ができるようになりました。これからもナイトサポーターの方々と協働していきたいと思っております。



## 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン・インテンシブセミナーを開催して

医療情報部 部長 玉本 哲郎

3月18日・19日・25日・26日に次世代のがんプロフェッショナル養成プラン・奈良県立医科大学のインテンシブセミナーをWeb形式で開催しました。当日は、がん関連の医療スタッフや学生が中心の参加者でした。

## ● 3月18日(月)：がん相談支援センター

## 中村由美看護師・安川沙緒里相談員による講演と質疑

まず、国のがん対策基本計画の概要とがんとの共生のなかでがん相談支援センターの役割について話されました。次に、当院におけるがん相談支援センターの活動状況の概要や相談内容について、症例ベースでの話もしていただきました。その中でも、がん専門相談支援員のための学習の手引き<sup>1)</sup>にある「がん相談の10の原則」(図1)が印象的でした。今後ますます、がん診療のなかで、通常の診察室での診療時間内で対応できない役割を果たすことができるように思われました。

## ● 3月19日(火)：緩和ケアセンター

## 西尾福英之医師・梅岡京子看護師による講演と質疑

西尾福医師からは、がん診療における緩和医療について、特に症状緩和に役立つInterventional Radiology (IVR) についての内容を話していただきました。緩和IVRの種類、症状からみた適応について、実際の症例を交えてのお話でした。早期の効果発現の有効性、画像ガイドのため合併症が少ない安全性、同じ精度で繰り返し可能な実用性があるものの、専門性が高く普及していくにはいくつかのハードルがあるようです。梅岡看護師からは、緩和ケアチームの活動について、特に「チーム医療」と「多職種連携」のための取り組みについての内容でした。院内にとどまらず、地域に向けた取り組みの進展が今後期待されます。

## ● 3月25日(月)：腫瘍内科・外来化学療法室

## 武田真幸医師・増谷尚代看護師・青井博志薬剤師による講演と質疑

武田医師からは、「免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) による免疫関連有害事象 (irAE) について」の内容で、免疫チェックポイント阻害薬

の導入が進み、これまでの殺細胞性抗がん剤や分子標的薬と作用機序が異なり、これまで経験しない多彩な有害事象への対応を具体的に説明していただきました。「irAE 発症を早期に捉え、ICI 中止・治療のタイミングを見逃さないことと、迷ったらステロイドの投与が重要である。」が印象に残っています。増谷看護師からは、がん薬物療法における当院外来化学療法室でのチーム医療・多職種連携の実際についての内容、青井薬剤師からは、外来化学療法室における薬剤師の取り組みとして、特に、レジメン管理、Protocol Based Pharmacotherapy Management (PBPM)、薬薬連携の取り組みについてわかりやすくお話をしていただきました。

## ● 3月26日(火)：放射線治療科・放射線治療室

## 三浦幸子医師・中村雅子看護師・小川哲也技師による講演と質疑

高精度化した放射線治療は、診察から治療開始までには、多くのステップがあり、放射線腫瘍医、看護師、診療放射線技師、医学物理士などの多職種が関わるチーム医療(図2)となっています。医師、看護師、診療放射線技師の立場から、チーム内での役割とチーム外の医療スタッフとの関わりについて話されました。特に三浦医師からの頸部の巨大腫瘍の長期生存例、中村看護師からの、放射線治療時の適切な疼痛緩和により骨転移の治療が完遂できた症例、小川技師からの放射線治療における品質管理業務についてが印象に残っています。

今回は、がん診療のうち手術療法以外の部門についてのセミナーを実施しました。私自身が普段連携して診療を行っている部門のセミナーでしたが、初めて知る内容もあり大変有用であったと思います。また、今回は外科手術については扱うことはできませんでしたが、がん診療の中で手術治療が占める役割は重要であり、今後は、外科手術におけるチーム医療を紹介できる機会があればと思っています。

参考文献

- 1) がん専門相談員のための学習の手引き ―実践に役立つエッセンス― 第3版  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/training/consultation/pdf/gakushu\\_guide03.pdf](https://ganjoho.jp/med_pro/training/consultation/pdf/gakushu_guide03.pdf)

## がん相談10の原則

- ① 相談者にとって良い治療のアクセスを保護・促進する
- ② 担当医との関係を改善・強化する
- ③ 相談者の情報の整理を助ける
- ④ 行動に結びつく決定を促す
- ⑤ 面談、電話、電子メールなどの各相談スタイルの特性と限界を認識する
- ⑥ 相談者の情緒的なサポートを行う
- ⑦ 相談者を他部門・他機関に円滑に依頼する
- ⑧ 継続的なアクセスを保障する
- ⑨ 組織としての相談窓口を保護し、改善する
- ⑩ データを蓄積・分析しながら、相談業務の改善に役立てる

がん専門相談員のための学習の手引き  
 ―実践に役立つエッセンス― 第3版より

図1

## 放射線治療に関わる多職種

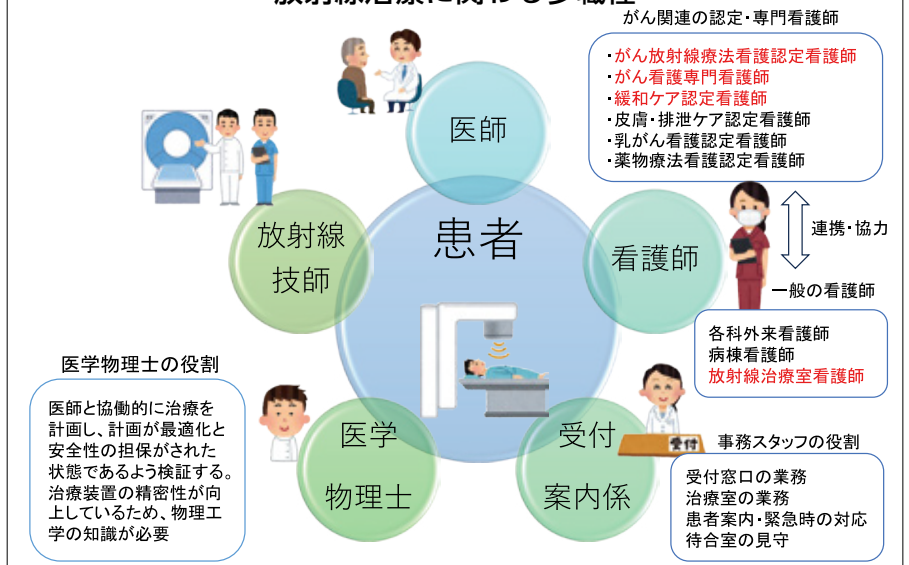


図2



12.20

## 平成記念病院と連携した災害医療訓練を実施しました

平成記念病院と連携した災害医療訓練を実施しました。

訓練では、院内各所で傷病者役の本学学生を対象にトリアージを行ったほか、2階職員食堂で災害医療統括部（本学災害対策本部の下部組織。災害発生時の患者の受入等、医療活動を実施）の運営を行いました。約100名の職員の方に参加いただき、院内各所から報告される内容に基づき他院と調整を行う等、実災害さながらの緊張感のある訓練となりました。

当院は、基幹災害拠点病院として、災害から県民を守り、地域の安心を確保するための取り組みを進めています。今回の訓練により浮かび上がった課題を確認のうえ、今後も災害医療対策に取り組んで参りますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



重症患者への対応を行う訓練参加者  
(BC棟1階南玄関付近)



災害医療統括部でミーティングを行う様子 (BC棟2階職員食堂)

1.9

## 医学科6年生竹下さん筆頭著者の論文がBMC Public Health誌に掲載

医学科6年(当時) 竹下 沙希

この度、公衆衛生学講座での研究の成果が論文として学術雑誌「BMC Public Health」に掲載されました。本研究では、高度肥満集団が臨床的特徴によって複数のクラスターに分かれ、処方内容や合併症に明確な差があることをレセプトデータから示しました。掲載まで様々な困難がありましたが、継続してきた研究の成果を学部生の間に論文化することができ、とても嬉しく思います。また、論文化のプロセスを通して研究をより有意義なものにブラッシュアップでき、研究の面白さや奥深さに改めて気付かされました。丁寧にご指導くださった公衆衛生学講座および糖尿病・内分泌内科学講座の皆様をはじめ、これまでの研究に関わってくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

論文名：Novel subgroups of obesity and their association with outcomes: a data-driven cluster analysis

雑誌名：BMC Public Health



1.15

## コシノジュンコさんに授業をしていただきました

世界的ファッションデザイナーのコシノジュンコさんにMBT特命教授に就任いただき、本学1年生向けに授業をしていただきました。MBT特命教授は、MBTの目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績がある方に就任いただいております、コシノさんで6人目となります。

講義のなかでコシノさんはユーモアを交えながら「医師は人々を健康にするのが仕事。みなさん自身がまず健康を保ち、患者の気持ちをくみとるセンスを磨いてください」と語りかけられました。講義には教職員も参加し、講演後に全員で記念写真も撮影しました。



12.24  
～  
1.7

## ニュージーランド ファースト・レスポnder 研修

医学科6年 鈴木 慧士

2023年12月下旬から2024年1月上旬にかけ、ニュージーランド南島の都市クライストチャーチにてNew Zealand First Responder 研修が行われました。臨床英語のBolstad教授により企画されたこの研修は、ニュージーランドの救急隊員を養成・教育する機関であるPro+MedのインストラクターとBolstad教授から救急処置や技能について学が約2週間のコースで、トレーニングを含め期間中は全て英語を使います。本研修は毎年実施されていましたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされ、今回はコロナ後初の研修となりました。本年度は希望者30名以上の中から医学科5年生9名と3年生1名が選ばれました。高学年の学生が多い為内容はそれに依じて例年よりハイレベルに設定されました。

研修は心肺停止患者に対する一次救命処置(BLS)から始まり、初日こそ本学での実習で既知の内容でしたが、その後は二次的救命処置(ACLS)、primary及びsecondary surveyをはじめとした外傷初期治療などこれまで実際に実習や訓練を行っていない内容へと進み、さらに大量出血や熱傷、外傷骨折、気胸など、より具体的かつ頻度の高い状況を想定したトレーニングや処置の練習も行いました。終盤はトリアージ及び多数の傷病者が発生するシナリオでの研修となり、より高度なレベルを要求されました。研修期間中、午前中は主に新しい知識や技能の習得、午後は主に具体的な状況を模した「シナリオ」を通してそれを実践、振り返るという流れでした。シナリオでは2、3チームに分かれ、それぞれ医療者側と患者側になり練習しました。

本研修はその名の通り救急処置について集中的に学び実践するのが第一の目的であり、実際にこれまでの実習で取り組んだことのない内容が多く、知識としては知っていても手が動かないと感じる日々でした。しかしそれと同時にチームワークとコミュニケーションの重要性を改めて実感しました。本邦での実習時はOSCEを

じめ殆ど場合は個人での練習・評価となる一方、本研修では4、5人のチームでトレーニングを行いました。チームでの対応に不慣れな私達は、研修の開始時にはチームとしての連携が覚束ず期待通り処置が進まないことが多かった上、さらに普段は英語を使うことに慣れているとはいえ緊張感のある中で互いのコミュニケーションが大幅に低下したことはチームワークとコミュニケーションの重要性を鮮明にしました。チームとして円滑に機能することと個々の技術が高いことは質的に異なり、また一度に多数の患者の対応を行う難しさも実感しました。日を追うごとにメンバー同士の会話や情報交換は徐々に改善し、最終日には長いシナリオを終えた後、実際に現地で働くことのできるプレホスピタルケアの証明書を授与されました。

奇しくも本研修中に本邦では大きな出来事がありました。元旦に起きた能登半島大地震と、その翌日の日本航空旅客機と海上保安庁機の衝突事故は、大きな災害や事故が身近に起こりうること、そしてまた医療従事者としてそれに直面する可能性は決して低いことを実感するものでした。今回の研修に参加した学生は全員が救急科を志望している訳ではありませんが、将来の専門が何であるにせよ、医学生そして医師として最低限の救急処置やその対応能力は身につけておかなければならないことを再認識しました。

研修の隙間時間にはクライストチャーチを離れニュージーランドの美しい自然に触れることができました。数々の映画の舞台となった南島にはArthur's Passやマウントクックの愛称で知られるMt. Aorakiなど雄大な景色が広がり、本邦の夏のような蒸し暑さとは無縁の涼しい気候で大変快適でした。

最後に、この研修を支えてくださいました「未来への飛躍基金」に深く感謝申し上げます。また教育支援課の石田様、臨床英語の末松様、そして何よりこの研修を企画し引率してくださいましたBolstad教授に深く御礼申し上げます。





1.23  
~  
1.26

## 2巡目医学教育分野別評価を受審しました

医学教育分野別評価は、2010年9月に、米国医師国家試験受験資格審査NGO団体(ECFMG)から、「2023年以降、国際基準に基づいて認定された医学部以外の卒業生には米国で医師になる資格を与えない。」と通告を受けたことに起因して発足した外部監査制度であり、世界医学教育連盟(WFME)から認証された日本医学教育評価機構(以下、「JACME」という。)による外部評価を受審し、認定を受ける必要があります。

本学は2016、2017年度に同評価を受審し、2017年4月1日～2025年3月31日までの認定を得ていました。

今年度が2巡目の受審年度にあたり、令和4年4月に医学教育分野別評価委員会と9つの評価領域ごとの領域部会を設置して、課題抽出や改善案の検討等の教育改革を行い、自己点検評価書を作成しました。11月にJACMEへ自己点検評価書を提出して書面審査を受けた後、1月23日～26日に実地調査を受けました。実地調査は、JACMEから派遣された7名の評価委員が自己点検評価書を基に領域別検討会議で質疑応答等を行ったほか、講義や臨床実習等の見学、学生や教員等との面談が実施されました。

なお、受審結果は、2024年4～5月にJACMEから通知される予定です。

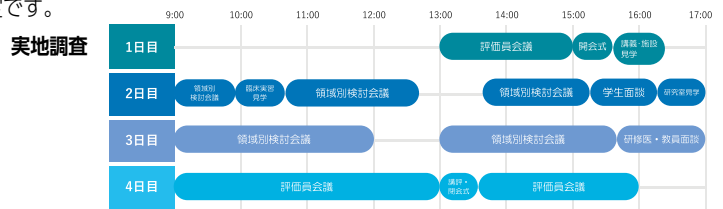
### 自己点検評価書

医学教育分野別評価の評価基準は、9つの領域とその下位に位置する36の下位領域で構成されており、それぞれの領域に基本的水準(B)と質的向上のための水準(Q)の2つの評価水準が定められています。

これらの評価基準ごとに、これまで各種の委員会や各領域部会等を中心に取り組んできた教育改革や教育内容等を記載した、約330ページから成る「奈良県立医科大学医学部医学科自己点検評価書」を作成して、2023年11月にJACMEへ提出しました。

領域	下位領域
領域1 使命と学修成果	1.1 使命 1.2 大学の自律性および教育・研究の自由 1.3 学修成果 1.4 使命と成果策定への参画
領域2 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成 2.2 科学的方法 2.3 基礎医学 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学 2.5 臨床医学と技能 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 2.7 教育プログラム管理 2.8 臨床実践と医療制度の連携
領域3 学生の評価	3.1 評価方法 3.2 評価と学修との関連
領域4 学生	4.1 入学方針と入学選抜 4.2 学生の受け入れ 4.3 学生のカウンセリングと支援 4.4 学生の参加
領域5 教員	5.1 募集と選抜方針 5.2 教員の活動と能力開発
領域6 教育資源	6.1 施設・設備 6.2 臨床実習の資源 6.3 情報通信技術 6.4 医学研究と学識 6.5 教育専門家 6.6 教育の交流
領域7 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価 7.2 教員と学生からのフィードバック 7.3 学生と卒業生の実績 7.4 教育の関係者の関与
領域8 統轄および管理運営	8.1 統轄 8.2 教学における執行部 8.3 教育予算と資源配分 8.4 事務と運営 8.5 保健医療部門との交流
領域9 継続的改良	(下位領域なし)

実地調査スケジュール



### 領域別検討会議

2日目と3日目にかけて領域毎に自己点検評価書の内容について、質疑が行われました。

### 講義・施設見学

1日目に臨床医学I「呼吸器疾患」の講義見学とスキルスラボ、図書館及び自習室の施設を見学されました。講義見学では、室教授がアクティブ・ラーニング型授業を実施し、事前に課題を与えられた学生が資料を作成し発表を行いました。この発表を受けて、室教授と学生全体が活発に質疑応答しながら、課題の解説が行われました。評価員に教員と学生が一丸となって授業に参画している様子を見学いただきました。スキルスラボではシミュレーション教育の実践状況を、自習室では活用状況を確認されました。

### 研究室見学

2日目に学生が医科学研究生として研究に従事している研究室の中から、免疫学講座と生理学第二講座を見学されました。評価員から研究内容や学会での発表等について、学生と指導教員に質問があり、学生は丁寧に回答していました。

### 臨床実習見学

2日目に行われた臨床実習見学では、臨床医学Ⅲ(5年生)の選択型臨床実習※の様子を見学されました。評価委員は3チームに分かれ、循環器内科病棟、消化器外科病棟及び小児科外来において、実際に実習しているところを見学し、指導教員や学生との意見交換等を通して、学生の医療チームへの参加状況や電子カルテ記載、患者診察、EBMの実践などについて確認されました。(※選択型臨床実習：学生自身が選択した診療科で4週間ローテーションする実習。5年次9月から6年次7月にかけて、44週間(11ターム)の実習を行う。)

### 面談

2日目と3日目に行われた学生・研修医・教員に対する面談では、JACMEの評価員と1～5学年の代表学生11名、1～2年目の研修医4名、教養・基礎・臨床の各教育課程の教員6名との面談が実施され、教育内容について聞き取りが行われました。

### 講評・閉会式

自己点検評価書と実地調査の内容について、領域毎に評価員から講評をいただきました。今後、正式な評価報告書が送付される予定です。





1.24

## 近畿地区近隣医科大学 共同フォーラムに参画しました

女性医師活躍推進に関する情報共有を目的に近畿地区近隣医科大学共同フォーラムが開催されました。本学からは女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーが参加し、センターの取り組みについて発表しました。本学以外には京都府立医科大学、関西医科大学、大阪医科薬科大学、兵庫医科大学が参加し、各大学の担当者が女性医師活躍推進を担う組織及びその活動内容について Web 上で情報共有しました。

参加5大学とも大学で働く女性医師を増やすために有効な支援策を模索しており、本学の女性医師に対する研究支援に大きな関心が寄せられました。今後も近隣医科大学との交流を深め、女性医師支援の在り方について検討していきたいと思っております。



女性医師の活躍推進について議論される様子  
須崎マネージャー（左列上から3段目）

2.10

## 一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団 主催 「漢方医学教育 SYMPOSIUM 2024」で発表しました

教育開発センター 教育教授 若月 幸平

一般財団法人日本漢方医学教育振興財団より 2021 年度漢方医学教育研究助成をいただき、今回、2024 年 2 月 10 日に開催されました漢方医学教育 SYMPOSIUM において最終成果発表を行いました。研究テーマの「ゲーミフィケーションを利用した漢方医学教育」では、学生がゲーム感覚で漢方に親しみ・学ぶことを目的とし、東洋医学のコース中に Forms を利用した漢方関連の問題への挑戦（授業内・外）やグループワークによるアクティブ・ラーニングを実施しました。実施後の学生へのアンケートでは漢方の効果や必要性に関して好意的な変化が見られました。今後もさらに学生が能動的に学べる授業を考案していく所存です。最後に本研究にご尽力いただきました大和漢方医学薬学センターの三谷和男先生に感謝申し上げます。



2.10

## 臨床研究 県民公開講座を 開催しました

臨床研究センターは、奈良県コンベンションセンターにて、第7回奈良県立医科大学附属病院 県民公開講座「未来への医療—超高齢社会を生き抜くカギ 健康寿命をのばすには—」（後援：奈良県、奈良市）を開催しました。

今年も、会場とオンラインとのハイブリッド形式により実施し、120 名近くの県民にご参加いただきました。笠原正登 教授（臨床研究センター）による開会の挨拶の後、平田匠 特任准教授 座長の下、浅田潔 准教授（臨床研究センター）による「わかりやすい臨床研究・治験のお話」に続き、眞野智生 部長（奈良県総合医療センター リハビリテーション部）からは、「健康寿命を基盤としたフレイル対策」、彦惣俊吾 教授（循環器内科学講座）からは、「進化する心臓病治療—より良い治療を目指して—」についての講演をいただきました。



1.29  
~  
2.2

## 医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました

奈良学は、奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県の医療状況について学び、奈良の医療に対する意識を涵養することを目的に開講しています。また、本科目は、医師・看護師の多職種連携の基盤形成を図ることも目的に医学科1年生と看護学科1年生の合同講義として開講しています。

令和5年度は、1月29日(月)～2月2日(金)の5日間、集中講義として実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、フィールドワークの時間短縮や、病院見学実習を一部遠隔で実施する等、実施形態を変更していましたが、今年度は、コロナ禍前と同様の実施形態で実施することができました。

### ■ 奈良学の開始にあたって

細井学長から、本学の過去・現在・未来と題して、講義をしていただきました。奈良学は、本学の学生が自己の将来を有意義なものにするために必要な材料を提供することと、本学の姿を知って、本学の学生である誇りを持つようになることを目的として開講していると始めに話されました。ご自身の業績に触れられながら、本学の独自の取組のひとつであるMBTについて講義し、新キャンパスの構想も説明されました。最後に、学長がお持ちの信念を話され、学生へ挑戦する気持ちを常に持ち続けるよう激励の言葉を贈られました。

### ■ 奈良の文化・歴史・自然学習

奈良の文化・歴史・自然について、座学で学んだ後、医学科と看護学科を混ぜた約8名ずつのグループに分かれ学生自身でフィールドワークの計画を立て、県内7か所で自然散策を行いました。

#### 《今井町の歴史(座学)》

今井町並み保存会の中西会長をお招きし、本学の近隣に位置する今井町の歴史について講義をしていただきました。

講義では、今井町の起こりから重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、現在に至るまでの歴史を説明されました。今井町の歴史について深く考えたことがなかったが、講義を受けて今井町パンフレット今井町がより身近に感じられたという意見が多数ありました。



#### 《深イ奈良の歴史&文化(座学)》

奈良まほろばソムリエの会の鉄田専務理事をお招きし、奈良県の歴史と文化について講義をしていただきました。

講義では、奈良県の地域性から奈良盆地北部、奈良盆地南部、大和高原と吉野路の4つのエリアに分けることができることの説明があり、各エリアの特色や観光地等の講義をしていただきました。出身地を問わず、奈良について幅広く、楽しく知ることができたようでした。

#### 《奈良県の地理・気候・自然災害(座学)》

気象庁 奈良地方気象台の瀧澤様をお招きし、奈良県の地理や気候、自然災害について講義をしていただきました。

奈良県の地理に詳しくない学生にもわかりやすく、市町村の位置関係や奈良県の自然災害、災害が起きた時の対処法をクイズを交えて講義されました。学生の感想には、奈良県の大規模な病院の一部が、災害の危険性がある地域に存在することを初めて知ったとの声があり、当該病院が被害を受けた際の対応について考えるきっかけになったようです。

#### 《フィールドワーク》

奈良市東部、奈良市西部、大和郡山市、斑鳩町、桜井市、明日香

村及び吉野町の7コースに分かれ、グループごとに作成した計画書に沿ってフィールドワークを行いました。学生の感想では、直接、奈良の寺社を訪れることで、奈良の魅力を再発見した、学科を問わず、今まで話をしたことがなかった学生と仲良くなれた等が多数ありました。

また、フィールドワーク終了後、見学地ごとに写真、解説、見どころ及び豆知識などを、グループ内で報告書にまとめていました。



東大寺 (J班)



大神社 (M班)

### ■ 奈良の医療についての学習

3日間を通して、奈良の医療について学びました。

初日は、グループごとに見学先の病院について事前学習した後、県内12病院で病院見学を行いました。2日目は、奈良県の医療について座学で学んだ後、奈良県の医療における課題及び解決策をグループディスカッションし、発表資料を作成しました。

最終日は、前日に作成した資料を用いて、奈良県の医療に関する発表会を6つの会場に分かれて行い、各会場から選ばれた最も優秀なグループ1組がシンポジウムで発表しました。

#### 《病院見学実習》

奈良県内の12病院に分かれ、病院見学を実施しました。地域医療の現状等を踏まえて、病院の概要、立場などをご紹介いただきました。また、病院ごとに、7テーマ(地域医療、在宅医療、へき地医療など)が割り振られ、グループワーク及び発表会に向けて、見学先の医師や看護師、メディカルスタッフのお話を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。

1年生の授業内では普段見ることのできない、外来、検査室手術室及びドクターヘリなどを見学させていただき、初めて見る病院の設備、機器に直接触れる体験実習を行い、興奮している学生も多数いました。学生は、実際に見学させていただくことで、将来、医療人となることを実感し、医療について学ぶモチベーションが上がったようでした。



南奈良総合医療センター (5班)



済生会奈良病院 (18班)



## 《奈良県の医療（座学）》

奈良県医療政策局の筒井局長から奈良県の医療について講義をしていただきました。

国の動向を踏まえつつ、県内の地域性を考慮した医療施策を展開していることを、現状や現在の取組状況、今後の方針を交えて説明されました。学生は、これまで学習した講義内容やフィールドワーク、病院見学がこの講義と結びつき、奈良県の医療について学びを深めることができたようでした。

## 《奈良県の医療と病院に関する発表会の資料作成》

病院見学実習ごとに設定されたテーマに沿って、奈良県の医療における課題の明確化、優先順位の決定と解決策の検討を行いました。



KJ法による課題の明確化

課題の明確化はKJ法を、設定した課題の解決順の決定は2次元展開法を用いました。縦軸を重要性、横軸を緊急性としたグラフに、KJ法で明らになった課題点を配置し、両方の指標が高いものから最優先課題を決定しました。

決定した課題について検討し、病院見学実習で学んだことや医師・看護師が地域医療に求められることや実施すべきこと等をまとめ、発表資料を作成しました。

終了時間を過ぎて、より良い発表をするためにブラッシュアップを重ねているグループもあり、熱心に取り組む様子が印象的でした。

## 《奈良県の医療と病院に関する発表会》

22班を6会場に分け、発表会を行いました。

会場ごとに教養教育部門と看護学科の教員各1名がファシリテーターとして立ち会い、発表の仕方や資料の見せ方等についてコメントをしました。

すべての班の発表後、午後のシンポジウムで発表する代表班を学生自身の話し合いにより選出しました。代表班選出後、シンポジウムで発表する代表班のために、会場の学生が意見を出し合い、発表内容や方法のブラッシュアップを行いました。

## 《奈良県の医療と病院に関するシンポジウム》

病院見学実習先から以下の5名の方をコメンテーターとしてお招きし、大講堂でシンポジウムを開催しました。司会は、地域医療学講座の大前助教、ファシリテーターは、嶋医学部長と教育開発センターの若月教育教授が担当されました。

午前の発表会で代表となった6班が発表を行い、各班の発表後にはコメンテーターの方々から実際の医療状況や各病院の現状、取組み内容も踏まえコメントをいただきました。すべての班の発表後に、全22班の投票により、1位～3位の班を決定、また、今年度からコメンテーター特別賞を追加し、嶋医学部長から表彰

を行いました。

シンポジウムの最後には、コメンテーターの方々から講評を賜りました。コメンテーターの方からは、病院見学実習を含めた様々な授業が発表に活かされていることに感心を受けたことや、今回の経験を活かし時代に応じた多様なスキルを持つ医師・看護師を目指してほしい、是非来年も病院見学に来てほしいことなどのコメントがありました。実際に見学した病院の方からお話を聞くことで、奈良の医療について考える学生にとってかけがえのない貴重な体験となりました。

## 【コメンテーター】

奈良県西和医療センター

土肥 直文 病院長 竹之内 美栄 看護部長

大和高田市立病院

岡本 千賀子 看護局長 里内 正樹 認定看護師(感染・係長)

南奈良総合医療センター 森 春枝 看護部長

## ■ 奈良学を受講した学生の感想

「奈良学」では、実際に病院を見学して、各病院のテーマに沿った説明を受けました。事前学習では、教養教育を受けたのみで医学的知識が殆どない我々が学べる事などあるのだろうか?と懐疑的でした。しかし、実際は多くの学びがあり、「行動科学」や「倫理学」でも学んだ、医療者である以前に人間として当然持つべきであるような、患者に対してのあり方をより深くまで学ぶ事ができました。今後、医学を学んでいっても、医学知識がない立場から「患者という一人の人間に対してどう在りたいか」を考えたこの体験を忘れずにいたいです。

1位となった22班を代表して医学科1年生 井上さん

奈良学を通して、奈良や奈良の医療に関して今まで以上に知ることができました。自然学習では、実際に現地で奈良の自然や歴史を感じ、また、学外への病院見学では、医学科1年生としては初めて院内を見学させていただきました。看護学科の人たちともグループワークを行い、発表することで病院見学での学びを深めることができたと感じました。この学びを忘れず、2年生以降での講義や実習で活かすことができるように努めたいと思います。

医学科総代 津本さん

奈良学を通して、奈良の文化や歴史、自然だけでなく、実際に病院へ足を運んだことで奈良の医療に関しても学ぶことができました。私自身、県外から通学しているので、奈良について詳しく知りませんでした。しかし、多くの視点から奈良を知ることができ、奈良への関心がより深まりました。奈良学が私にとって、奈良の医療に貢献したいと思うきっかけとなりました。奈良学での学びや経験を活かして、これからの学業に励んでいきたいと思っています。

看護学科総代 平野さん



1位及びコメンテーター特別賞の班



2位の班



3位の班



講評をされる嶋医学部長



2.15

## 第19回地域医療連携懇話会を蔵 糧会館で開催しました

地域の医療関係者を対象に医療の現状や諸課題の情報共有などを目的としたこの懇話会は、平成22年の第1回より今年で19回目の開催となりました。今回も会場での対面形式とWEB配信のハイブリッド開催とし、様々な職種の参加者に集まっていただきました。

今回は生活習慣病をテーマとして3名の先生方にご講演いただきました。講演Ⅰ ひがみりウマチ・糖尿病内科クリニック 樋上 謙士 理事長からは「生活習慣病診療におけるかかりつけ医の取り組み」と題して特定健診の大切さなど詳細なデータに基づいたご講演をしていただきました。

続いて講演Ⅱ 南和広域医療企業団 吉野病院 福岡 篤彦 前院長からは「生活習慣病は生活習慣を変えましょう!」と題して呼吸リハビリテーションのお話しと笑いヨガの実演もしていただきました。講演Ⅲ 本学地域医療学講座 赤井 靖宏 教授からは「STOP ☆ Diabetes 変わりゆく「糖尿病」とその診療～すべての医療者と共有したいポイント～」と題して糖尿病に関して予防や初期の血糖コントロールの重要性などをわかりやすくお話ししていただきました。

今後も地域連携・入退院支援センターでは地域の医療関係者を対象として、一層の内容の充実を目指して、定期的開催いたします。



全体図



吉川院長(右)と吉治教授(左)

樋上先生



福岡先生

赤井先生

1.13  
~  
2.22

## 附属病院DMAT第2隊、 JRAT等を石川県へ派遣しました

令和6年能登半島地震に対応するため、附属病院では、1月4日(木)から1月7日(日)までDMATチーム(災害派遣医療チーム)を派遣しましたが、その後も石川県では非常に厳しい状況が続いていることから、1月13日(土)にDMAT第2隊を派遣しました。第2隊は石川県で患者搬送や診療等の業務を担当した後、1月18日(木)に帰院しました。

また、当院と災害救護の協定を結ぶ日本赤十字社奈良県支部の要請を受け、日本赤十字社医療救護班として、1月24日(水)より計7名の当院職員を石川県輪島市に派遣しました。当院職員は輪島市内の救護所の巡回診療等の業務に従事し、1月28日(日)に帰院しました。

さらに、2月18日(日)には、当院初となるJRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)を石川県に派遣しました。JRATは、石川県内でも特に被害が甚大な七尾市、穴水町、珠洲市、輪島市等で、被災者の方々のリハビリテーション業務に従事し、2月22日(木)に帰院しました。

地震発生から数カ月が経過し、がれきの撤去や断水の解消といった復旧に向けた動きも進み始めていますが、一方で、多くの方が依然、避難所での生活を余儀なくされているのが現状です。避難が長期化するにつれ、新たに表面化する課題もあると当院では認識しており、今後も被災地のニーズに応じた医療チームを派遣できるよう最善を尽くして参りますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



JRATの活動について吉川病院長に報告する様子(附属病院内)



活動中のDMAT第2隊(石川県金沢市)



日本赤十字社医療救護班として巡回中の当院職員(石川県輪島市)

1.30  
2.28  
3.29

## MBT 研究所運営会議を開催しました

月に一度の MBT 運営会議では、MBT 研究や取り組みの情報共有や調整を図り、企業と現在進行中の連携活動や共同研究などに関する進捗報告を行っています。

今回は、本学の抗老化研究への重点投資方針に合わせ、MBT コンソーシアムの「抗老化部会」の新設、社会貢献活動 第3弾の「難聴克服・認知予防キャンペーン」の推進、「オートファジー・抗老化研究センター」「高度生殖医療センター」のキックオフシンポジウム支援進捗等について議論し、MBT の広報の在り方について検討を重ねました。

また、臨床研究センターの現場から、特定臨床研究テーマ設定を増やすうえで、産学官連携推進センターや MBT コンソーシアムとの連携で情報共有を図りたいとのリクエストがあり、今後、運営会議に参加していただくことになりました。

MBT は、今後も多種多様な活動により産業創生・まちづくり・社会貢献を推進していきます。



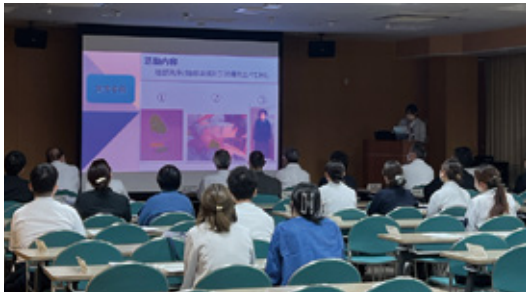
## 2.28 TQM 大会を対面開催しました

附属病院において、TQM (Total Quality Management (総合的質管理)) 活動の取り組みを推進しています。TQM 活動は、職員自らが日頃感じている具体的な課題や問題点について、主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図り、さらに活動成果を病院の業務等に生かすこと、そして医療・サー

ビスの質を継続的に向上させていくことを目的としています。

今年度で9回目となる本大会は、4年ぶりに対面形式で開催しました。全14グループが参加し、趣向を凝らした活動内容や成果を発表しました。医療安全・教育質向上プロジェクトの委員が審査を行い、表彰式も行いました。

日々の業務の中から生まれた問題点とそれに対する課題・改善行動は、各グループの特色が見え、多職種にも参考となる内容のものが多数ありました。今後、継続して取り組むことを期待しています。



グループの発表



表彰式

■参加グループ一覧【活動内容をお知りになりたい場合は、経営企画課までお問合せください。】

グループ名	活動テーマ	所属	賞
質向上お助け隊	これを読めば今すぐ書ける！素敵サマリー	C棟8階	プロジェクトリーダー賞
A. R. E.	認知症マップを作って、広めよう ～ muff care ～	D棟2階、D棟3階、B棟5階、 医療技術センター、精神科	
もやもや戦隊 もやもやんず	やってみよう！倫理カンファ	生命倫理監理室、経営企画課 他	2位
輸血の戦士	【リベンジ編】第2回コラボ 輸血部 中央手術部 #緊急輸血シミュレーションやってみた！	中央内視鏡部、中央手術部、 輸血部、麻酔科	
疑義照会を紹介しよう会	薬剤インシデントの減少に向けた取り組み ～疑義照会記録フォームの作成～	薬剤部	1位
Team AED	Let's study AED	医療技術センター	
C3 Cチーム	快適睡眠推進委員会	C棟3階	院長賞
A4	TENA ウェットワイプペリケア使用による陰部清拭と従来の 陰部洗浄との比較検証調査	A棟4階	
C3 特定看護師	特定看護師による活動	C棟3階、麻酔科	
MER23. チームC	チーム内留学で経験値を上げる！	地域連携・入退院支援センター	
「MERチャンネル」チームB	地域に生きる ～退院支援職員が退院前後訪問をしてみた！～	地域連携・入退院支援センター	
TEAM AIよりも大きなLOVE	Let's Go 術前訪問	看護部中央手術部、 周術期管理センター、E棟6階	
1類感染症備え隊	あなたを守る！タイベック防護具の正しい着脱！！	C棟8階、感染管理室	3位
医療技術センター リハビリ	「みつばち」なんて呼ばせない！ ～手指衛生で交差感染を防ぐ～	医療技術センター、感染管理室	



3.2

## わい和いNARA 在宅サポート研究会が事例検討会を開催致しました

下記事例検討会にて、事例検討会で熱いディスカッションを行いました！

テーマ：「地域みんなで考えよう。地域で支える子供の未来～おうちに帰るにはどうする？病院と在宅の役割について～」

日 時：2024年3月2日(土) 14:00～17:00

場 所：巖櫃会館 3階大ホール

参加者：病院看護師、訪問看護師、介護支援専門員、相談支援員、養護学校教員、ソーシャルワーカー、学生、教員等、医療的ケア児に関わる多職種 27名

### 〈プログラム〉

1. 会長挨拶 小竹久美子
2. 事例検討

#### ① 「小児の訪問看護の現状と課題について」

発表者：奈良県看護協会立宇陀訪問看護ステーション 中川 朋子 氏

#### ② 「Aくんの退院後訪問指導」

発表者：奈良県立医科大学附属病院小児センター 原 裕美子 氏

#### ③ ①、②の事例について、5グループに分かれてディスカッションの後、全体での発表・共有

医療の進歩により医療的ケアが日常的に必要な児童が、病院での療養を経て地域に帰り生活できることが増えてきました。本事例検討会では、子供を病院から地域に送り出す立場と、地域で迎え支える立場からの事例提供と課題の提起を行った後、いろいろな立場のメンバーで熱い意見交換を行いました。各参加者の日頃の実践活動や悩みも共有しながらの交流と、“わい和い”と熱いディスカッションとなりました。



3.7

## ならコープ健康大学でMBT 講義をしました

健康の実感と運動の機会を県民に提供する「ならコープ健康大学」がリーベル王寺東館5階で開催されました。

MBT 研究所のブースでは、体を動かして健康維持が狙いの健康TVゲームと、脚の筋力を鍛えるMBTトレーニングパチンコを、参加された高齢者の方に体験していただきました。健康TVゲームでは、ワイワイ言いながら全身を使って動き、トレーニングパチンコでは時間を忘れるくらい夢中でペダルを漕いで当たりが出ると、とても喜んでおられました。

1 時限目の実技は、基本的な運動・測定、椅子を使ったストレッチヨガを実施しました。

2 時限目の公開講座は MBT 研究所 梅田副所長が「人生楽しく長生き 健康の秘訣とは」をテーマに、自分らしく健康的な生活ができるよう日頃から健康づくりを意識してほしいと講義をされました。

参加された方々は動画をみて大笑いされたり、メモをとりながら熱心に聴講されていました。

今後もイベント等を通じて、MBT 研究所の取り組みを発信していきます。



MBTトレーニングパチンコ体験の様子



講義される梅田副所長



医学科2年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を1月4日(木)～3月6日(水)の約9週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた海外への学生派遣を3年ぶりに再開し、海外8機関、国内20機関及び学内37教室等で実施しました。また、最終日の3月6日(水)には、成果発表会を10班に分かれてZoomで開催し、約9週間の実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

この度、リサーチ・クラークシップで未来基礎医学の森英一朗先生のご紹介で、The University of Texas Health Science Center at San Antonio の Burma lab で約2か月間、「Elucidating the mechanism of glioblastoma recurrence by radiation-induced cellular senescence」という演題の研究に取り組む機会をいただきました。

本研究は、膠芽腫という致死率が高い脳腫瘍に対して必要となる放射線療法の問題を解決するために、その鍵となる因子を探索するものでした。今回の研究を通して、膠芽腫を根治するためには、臨床の課題を研究で解決し研究の成果を臨床に繋げることが重要であると改めて認識することができました。そのため、医師になってからも臨床と研究の両側面から疾患に対してアプローチできるように、引き続き医学の勉強と研究に取り組んでいきます。最後に、このような貴重な機会をサポートしてくださった未来への飛躍基金に心より御礼申し上げます。

(後列右端 大平 雅也さん)

化学教室の酒井宏水教授のご紹介で、防衛医科大学校免疫微生物学教室の木下学教授のもとで腎不全マウスの各臓器の免疫細胞機能の解析を行いました。

研究について何の経験もない状態で始まり、精度の高い実験を行うことが最も難しく時間がかかるものだというのを痛感しました。しかし、徐々に技術が身につき明確な結果が出た時は達成感があり、それが新たな探究心に繋がるという研究の面白さを感じました。以前から臨床医でありつつ研究するという働き方に興味を持っていましたが、リサーチ・クラークシップの経験を通して研究というキャリアがより具体性を持って感じられました。

研究への興味を後押しする機会を与えてくださった酒井教授、木下教授をはじめ関係者の皆様、そして未来への飛躍基金にお礼申し上げます。

(前列右から2番目 越智 彩風さん)

今回のリサーチ・クラークシップでは、血栓止血医薬生物学講座の坂田先生のもとで、2ヶ月と少しの間自分の興味がある事柄を研究させていただきました。テーマは「テニス後の体温変化による身体負荷の可視化解析」です。

このリサーチ・クラークシップを通して、私は研究に対する姿勢や取り組み方を学ぶことができました。元々臨床にしか興味が無かったのですが、自分の疑問に思ったことを試行錯誤を重ねながら解決していくことにやりがいを感じ、加えて先生方の丁寧な指導により研究の基礎や心構えの一端を学ぶことができ、日常では関わるのが難しい「研究」をより身近に感じられました。

最後になりましたが、リサーチ・クラークシップ中にお世話になった血栓止血医薬生物学講座の先生方、特に坂田先生と廻角先生に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(後列左から2番目 松本 羽留久さん)

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内37教室、学外(国内)20機関、学外(海外)8機関のご協力のもとに、無事に終了することができました。コロナ禍で中断していた海外派遣も、多くの方々のご支援のもとに再開できました。医学部の学生生活は、ともすると試験勉強に追われがちですが、そのような中で、アカデミックな探究心の醸成を柱に据えた本科目は、大学らしい教育の場と考えております。これもひとえに、諸先生方のご指導あつてのことであり、厚く感謝申し上げます。写真の学生さんたちの生き生きとした表情を見て、さらに実りのある科目にできるようにと、気持ちを新たにしております。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

(科目責任者 堀江基礎教育部長)

## 3.9 第1回モバイルモニタリング研究会が開催されました

モバイル関連機器、モニター、ネットワーク、データベースなどを用いた患者の安全に関わるテーマを中心としたモバイルモニタリング研究会（代表世話人：辰巳満俊 奈良県立医科大学附属病院 医療の質・安全管理センター センター長）が、奈良県立医科大学附属病院においてハイブリッド形式で開催されました。第1回は“予期せぬ急変を防ぐための院内システムの構築”という内容をメインテーマとして、会長講演、特別講演、一般演題、企業シンポジウムなど多彩な内容の発表と活発な議論が行われました。特別講演、一般演題では奈良医大・MBTと企業5社で開発・商品化した「ー波形連携システムー tsunagu ーつなぐ・MBT」（商標出願中）を中心とした発表が多く行われ、開発や導入に至るまでの経緯、発展に向けての議論が行われました。

このシステムでは、看護師の持つスマートフォンに患者の異常を知らせるモニターアラームがその波形とともに表示されるシステムで、“いつでもどこでも患者の異常に気



づくことができる”といった特徴を持ったシステムです。また、コロナ対策として導入したワイヤレスモニターについての発表も今後のモニターの方向性を示すものとして重要な発表でした。企業シンポジウムでは、日本光電工業株式会社と株式会社ケアコムによる発表が行われ、AI (Artificial Intelligence) や今後の医療サービスの方向性などの提示や議論がなされました。参加いただいた細井学長や研究会世話人の下川院長（市立奈良病院）からは、奈良医大発の本システムの普及活動や更なる付加価値を与える開発が重要であるという意見をいただきました。



## 3.22 協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年度より共同で共同研究助成事業を行っています。毎年度末には研究成果報告会を実施しており、今年は下記採択課題について助成事業終了による成果報告会を開催しました。

〔集団行動解析システムによる第15染色体ダイソミーが行動に及ぼす影響と前頭前野病態生理基盤の解明〕

本学代表者：精神医学  
奈良先端大共同研究者：数理情報学研究室

山室 和彦 学内講師  
池田 和司 教授

〔動植物におけるゲノム刷り込み機構の平行進化と分子メカニズムの解明〕

本学代表者：発生・再生医学  
奈良先端大共同研究者：花発生分子遺伝学研究室

小林 久人 准教授  
伊藤 寿朗 教授

〔複数他者会話傾聴時のASD患者の視線活動分析とその訓練〕

本学代表者：精神医学  
奈良先端大共同研究者：知能コミュニケーション研究室

浦谷 光裕 学内講師  
中村 哲 教授

また、報告会后、協定大学共同研究助成事業の選考委員会を行い、令和6年度の採択は、下記の2件に決定いたしました。

・ヒト胃オルガノイド培地の開発と萎縮性胃炎の病態解析

本学代表者：消化器・総合外科学  
奈良先端大共同研究者：幹細胞工学研究室

庄 雅之 教授  
栗崎 晃 教授

・柿タンニンにインスパイアされたカテキンを有する新しい抗ウイルス高分子材料を基盤とした創薬への挑戦

本学代表者：免疫学  
奈良先端大共同研究者：ナノ高分子材料研究室

北畠 正大 講師  
Nalinthip Chanthaset 教授



## Winner Report

9.18

第31回日本組織適合性学会大会  
で大会長賞を受賞しました

免疫学 助教 王寺 典子

この度、2023年9月15日～18日一橋大学学術総合センターで開催された第31回日本組織適合性学会大会において、「腫瘍細胞に発現するHLA-F分子を標的とした新規免疫療法の開発」にて、大会長賞を受賞致しました。本研究は腫瘍細胞が発現する抑制性分子HLA-Fをブロックすることで種々の免疫担当細胞の再活性化を図ることを目的とした新規免疫療法開発のための基礎研究となります。この受賞は、免疫学講座 伊藤利洋教授をはじめ、本講座の皆様方から貴重なアドバイスや多大な研究協力をいただいた結果であり、感謝の念に堪えません。心より感謝申し上げます。

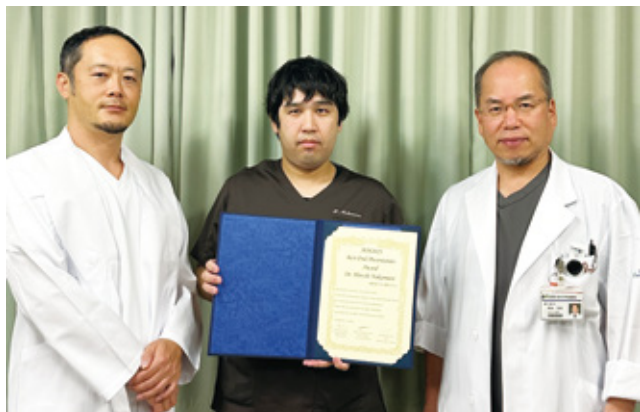
今回の受賞を励みとして、本研究を更に進展させるよう取り組んで参る所存です。

10.19  
10.21

The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society in conjunction with the 61st Annual Meeting of Japan Society of Clinical OncologyにてBest Oral Presentation Awardを受賞しました

口腔外科学 助教 中村 泰士

The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society in conjunction with the 61st Annual Meeting of Japan Society of Clinical OncologyにてBest Oral Presentation Awardを受賞しました。発表演題は「18F-FDG-PET/CT parameters correlate with delayed neck metastasis in clinical early-stage oral squamous cell carcinoma」で、PETパラメーターが早期口腔扁平上皮患者における後発頸部リンパ節転移の予測因子になり得る事を示しました。今回の受賞を励みに、今後も精進して参ります。御指導いただいた桐田忠昭教授、山川延宏准教授に深く感謝申し上げます。



10.26

## 医学教育等関係業務功労者表彰

中央臨床検査部 係長 片岡 美香

この度、令和5年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

この賞は、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に、文部科学省より授与されています。



12.8

日本臨床麻酔学会第43回大会で  
優秀賞を受賞しました

麻酔科学 助教 川西 秀明

このたび、日本臨床麻酔学会第43回大会におきまして「術後疼痛管理データベースシステムの構築と記述統計データの整合性の検証」の発表で、優秀賞を受賞しました。内容は、当院で独自に構築し、運用している術後疼痛管理回診システムに、術後疼痛スコア及び術後合併症の発生率について診療科と手術部位別に記述統計を簡単に行えるシステムを追加構築し、手作業で行った記述統計の値との整合性の検証を行いました。全ての算出値の一致を確認し、データの見える化を行ったという内容です。川口昌彦教授をはじめとして、研究の進行から演題発表まで多くの先生方に御協力いただき受賞できました。今後も臨床工学技士としてできる研究や挑戦を続けていきたいと存じます。今後ともご指導を賜ります様、宜しく願いいたします。





# Winner Report

12.9

## 第35回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会において新人賞を受賞しました

口腔外科学 医員 新子 寿未

Web開催された第35回NPO法人日本口腔科学会近畿地方部会において「多施設後ろ向きコホート研究による血友病患者の抜歯後出血リスク因子の検討」を発表し、新人賞を受賞しました。本研究は血友病診療連携ブロック拠点病院4施設と連携し、これまでで最も多いコホート研究となりました。

この賞を受賞できたのは、桐田教授、柳生先生をはじめ、親身にご指導いただいた先生方、ご協力いただいた多施設の先生方のおかげであり、心より感謝申し上げます。



1.26

## 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会で優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 学内講師 上田 順宏

札幌市の北海道立道民活動センター「かでの2.7」にて開催された第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会に参加し、口腔癌や顎骨壊死に対して行う下顎再建手術後の合併症である移植骨の骨接合不全について報告しました。65例211か所の骨接合部において、骨接合不全のリスク因子を検討し、ハイリスク部位における対応として行っている移植骨の形成方法について解説しました。本手法を行うに際し、術前シミュレーションから手術に至るまで、ご助言、ご協力いただいている整形外科の仲西康顕先生、長谷川英雄先生、美波直岐先生をはじめとする手・マイクログループの先生方、そしてなにより口腔外科学講座、桐田忠昭教授に心より感謝申し上げます。



### 令和5年度 学位授与の状況

博士(医学)

次の45名に博士(医学)の学位が授与されました。  
(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和5年6月23日(金) 5名

(甲) 森本 真未 法医学  
三須 政康 生体防御・修復医学  
紙谷 直毅 消化器機能制御医学  
佐藤 文哉 脳神経機能制御医学  
三宅 龍太 女性生殖器病態制御医学

学位授与日 令和5年9月29日(金) 5名

(甲) 福本 貴彦 運動器再建医学  
園部 奨太 免疫学  
矢野 裕己 循環器病態制御医学  
坂口 和宏 呼吸器病態制御医学  
寺田 智代子 病理診断学

学位授与日 令和5年12月22日(金) 4名

(甲) 内原 悠斗 臨床神経筋病態学  
大塚 紀朗 精神医学行動神経科学  
赤坂 咲恵 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学  
角谷 勇磨 侵襲制御・生体管理医学

学位授与日 令和6年3月14日(木) 31名

(甲) 峯 昌啓 公衆衛生学  
河邊 良枝 機能形態学  
中原 一貴 機能形態学  
北村 知高 生体防御・修復医学  
菱矢 直邦 微生物学  
紺田 真規子 免疫学  
小野寺 悠 血栓止血先端医学  
田崎 光 腎臓病態制御医学  
上村 貴之 腎臓病態制御医学  
深田 文裕 腎臓病態制御医学  
若井 聡始 消化器病態・代謝機能制御医学  
芝本 彰彦 消化器病態・代謝機能制御医学  
友岡 文優 消化器病態・代謝機能制御医学  
鈴木 淳也 消化器病態・代謝機能制御医学  
福島 功士 臨床神経筋病態学

高木 忠隆 消化器機能制御医学  
佐々木 亮太 脳神経機能制御医学  
Riju Dahal 脳神経機能制御医学  
前岡 良輔 脳神経機能制御医学  
西村 優輝 運動器再建医学  
廻角 侑弥 運動器再建医学  
今中 聖悟 女性生殖器・病態制御医学  
西山 武孝 視覚統合医学  
大前 隆志 発達・成育医学  
水町 邦義 発達・成育医学  
岡村 和哉 精神医学行動神経科学  
藤田 裕人 耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学  
舟山 直希 口腔・顎顔面機能制御医学  
川井 廉之 救急病態制御医学  
若林 大 臨床実証医学  
藤倉 裕之 感染症態制御医学

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から医学の研究に最も優れた論文の申請者  
三須 政康 生体防御・修復医学

修士(医科学)

次の5名に修士(医科学)の学位が授与されました。

菊池 綾 公衆衛生学  
平石 達郎 公衆衛生学  
前田 佑華 小児病態制御医学  
矢部 睦実 小児病態制御医学  
遠藤 宏和 臨床実証医学

修士(看護学)

次の7名に修士(看護学)の学位が授与されました。

大宮 恵美 看護学コース論文コース(小児看護学)  
堀 有沙 看護学コース論文コース(健康科学(心と脳の発達学))  
坂本 晴音 助産学実践コース(女性健康・助産学)  
武田 多恵 助産学実践コース(女性健康・助産学)  
夏目 悠都里 助産学実践コース(女性健康・助産学)  
福田 桃子 助産学実践コース(女性健康・助産学)  
宮下 織衣 助産学実践コース(女性健康・助産学)

1.21

## 第45回日本エンドメトリオース学会で演題発表賞を受賞しました

産婦人科学 助教 河原 直紀

2024年1月20、21日に東京で行われました、日本エンドメトリオース学会にて「子宮内膜症性嚢胞の悪性化鑑別におけるe-NARA indexの有用性の報告」と題した発表が演題発表賞（臨床部門）を受賞しました。内膜症性嚢胞は子宮外の卵巣実質に子宮内膜組織がみられ、月経の度に経血が嚢胞内に貯留し増大をきたす疾患です。この疾患を持っている方では卵巣癌発生リスクが上昇しますが、単に嚢胞があるだけで手術を行うことは患者負担および医療経済的に許容されないため、癌化の鑑別は外来診療において極めて重要です。当施設では以前より内膜症性嚢胞とその癌化について継続して研究を行なってきており、MRIの特殊な撮影方法であるMR relaxometry法により高い精度で鑑別できることを報告してきました。しかし、当方法のみに依存して鑑別するだけでは不十分であり、さらなる精度の向上が求められてきております。そこで、MR relaxometry法、患者年齢、および腫瘍径を組み入れた新たな予測システムを作成し、e-NARA index(endometriotic-Neoplasm Algorithm for Risk Assessment)を作成しました(PMID: 36359203)。奈良発の研究ですので奈良(NARA)に因んで命名しました。この方法は卵巣癌を高い精度で鑑別できることはさることながら、境界悪性と良性嚢胞を鑑別することも可能になり、今後臨床での活躍が期待できます。尚、当研究において多大な御指導を賜りました木村文則教授、バックアップして頂いたスタッフの方々に心より感謝申し上げます。



2.10

## 第16回日本ロボット外科学会学術集会において優秀演題賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 清水 卓斗

このたび、第16回日本ロボット外科学会学術集会(於鳥取)において、第16回日本ロボット外科学会学術集会 優秀演題賞を受賞いたしました。本賞は一般口演の発表に関して、各セッションの座長による評価・推薦に基づき、選出されるものです。受賞演題は『当院におけるロボット支援下腎部分切除時腫瘍被膜損傷に関する検討』です。2017年より当科が取り組んできたロボット支援下腎部分切除術の手術成績を報告し、被膜損傷のリスク因子として組織型の違いによる被膜の厚さに着目した臨床研究です。近年、ロボット支援下手術が泌尿器科領域以外にも保険収載され、奈良県内でも多くの病院へ導入が予定されていますが、本研究が当科はもちろんのこと今後導入される各病院での安全かつ安定した手術成績に寄与できるように期待しています。本研究にあたり、当科藤本清秀教授、三宅牧人准教授をはじめ、多くの方々のご支援・ご協力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



3.18

## 第64回東レ科学技術研究助成に採択されました

生化学 教授 中村 修平

この度、東レ科学振興会、第64回 東レ科学技術研究助成(1500万円)に「リソソーム品質機構の理解に基づく老化の根本原理解明」とうテーマで採択いただきました。近年の研究からこれまで単なる分解の場とされていたリソソームの重要性が次々と明らかになってきています。最近我々はこのリソソームのクオリティーコントロールを担う極めて重要な仕組みの一旦を発見し、この破綻が老化や加齢性疾患進展の要因となることを見出しました。本助成課題でこの関連を明らかにし、健康長寿実現の新たなシーズ創出に貢献したいと考えています。





## 4.16 第36回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞を受賞しました

理事長・学長 細井 裕司

(一社)ミュージック・ペンクラブ・ジャパンが主催する「第36回ミュージック・ペンクラブ音楽賞」のオーディオ部門、著作出版物賞を受賞いたしました。「ミュージック・ペンクラブ音楽賞」は、クラシック、ポピュラー、オーディオ三分野の評論家、研究者、有識者約140人の投票によって選定されます。ポピュラー部門では、故 坂本龍一さんが受賞されています。

「第2の聴覚である骨伝導が発見されてから500年ぶりに「第3の聴覚」と言われる軟骨伝導を発見し、聞こえに関する新たな可能性を示されました。全く新しい補聴器やヘッドホンの実用化を達成し、巨大なマーケットを持つスマホ、スマートグラス、

インカム、水中通信装置などの市場への新しい道を開かれました。」とのコメントをいただき、大変うれしく思っています。

また、昨年12月には(一社)日本オーディオ協会の2023年「音の匠」にも顕彰されました。2つの賞は多くの新聞やテレビに取り上げられ、全国的に軟骨伝導の普及に役立ったことも意義深いことでした。



## 未来への飛躍基金だより

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき心から御礼申し上げます。皆様からのご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会のつながりへの支援等、幅広く活用させていただいております。

## 紺綬褒章伝達式を行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました株式会社大創創業(ダイソー)の創業者で、本学のMBT特命教授\*である矢野博丈氏(享年80歳)に対し、紺綬褒章が授与されました。令和6年1月30日に東広島市にて紺綬褒章伝達式を行い、柁井副理事長から章記、紺綬褒章と併せて木杯を伝達するとともに、



矢野博丈氏(東広島市の事務所にて)



前列左から矢野博丈氏、柁井副理事長 ご友人の皆様とともに

ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。伝達式にはご友人の皆様がお集りくださり、喜びを分かち合ってくださいました。

\*矢野博丈氏は2020年7月に本学MBT特命教授に就任され、1年生を対象とした授業で特別講義を行っていただきました。

## 紺綬褒章のご案内

本学は、内閣府賞勲局より公益のために私財を寄附された個人・団体に授与される「紺綬褒章」の公益団体の認定を受けています。紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財(個人で500万円以上、団体で1,000万円以上)を寄附された方に授与される褒章です。あらかじめお申し出いただいた分納によるご寄附も含まれます。

未来への飛躍基金にご寄附をいただき「紺綬褒章」申請を希望される方について、本学から推薦させていただいております。授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索!



## 公開講座情報

### 日本消化器病学会近畿支部主催「市民公開講座」

開催日時：2024年9月7日(土)14:00～16:50 場 所：東大寺総合文化センター 金鐘ホール  
 概 要：知ってもらいたい！おなかの病気あれこれ 備 考：事前申込不要、参加無料  
 問合せ先：奈良県立医科大学 消化器・総合外科学教室 TEL 0744-22-3051 (内線 3419)

### 第6回わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会

開催日時：2024年6月1日(土)10:00～15:30 場 所：奈良県立医科大学看護学科棟 第1合同講義室、第1講義室  
 概 要：「外来から地域へ！いのちと暮らしに伴走するケア」 大 会 長：奈良県立医科大学附属病院 看護部長 石飛悦子  
 参加申込：https://forms.gle/GXNa5fnnBuf6hLGbA 備 考：参加無料、Facebook等に詳細を随時アップ  
 連絡先：奈良県立医科大学医学部看護学科 在宅看護学内 TEL 0744-22-3051 (内線 2744、2750、2776)  
 Mail ynarak@naramed-u.ac.jp URL wainara.com Facebookは二次元バーコードからアクセスください



## 令和6年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦 (緊急医師確保)	13	112	109	13	0	13	8.6	5.8
	推薦 (地域枠)	25	138	136	25	0	25	5.5	5.7
	前期	22	57	44	12	0	11	4.8	10.2
	後期	53	895	282	61	8	53	14.7	16.3
	欠員2次	11	249	249	11	0	11	22.6	—
	編入学 (研究医)	1	1	1	1	0	1	1.0	3.0
	編入学	1	25	23	2	1	1	12.5	5.3
	小計	126	1,477	844	125	9	115	11.8	11.6
看護学科	推薦 (地域枠)	35	88	88	35	0	35	2.5	2.1
	前期 (一般枠)	40	73	71	41	1	40	1.8	2.3
	前期 (地域枠)	10	44	44	10	0	10	4.4	3.5
	小計	85	205	203	86	1	85	2.4	2.3
医学部	合計	211	1,682	1,047	211	10	200	8.0	9.0

The donation person name

## 寄附者ご芳名

### 「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和6年1月～3月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

#### 【個人】

##### ◆100万円以上

大鶴 昇 様 北口 勝康 様 國分 清和 様  
 坂本 光章 様 辻本 達寛 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

##### ◆30万円以上100万円未満

北村 弥 様 田伏 大輔 様 中田 荷葉 様  
 宮田 重樹 様 吉岡 章 様

##### ◆10万円以上30万円未満

井上 進敬 様 上平 悦子 様 田中 末子 様  
 西岡 崇 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

##### ◆10万円未満

古橋 直樹 様 村上 真也 様

掲載を希望されない寄附者様 1名

##### ◆金額の公表を希望されない寄附者様

中川 民子 様 沼畑 千晶 様

#### 【法人・企業】

##### ◆100万円以上

アステッキホールディングス株式会社 様  
 一般財団法人 弘済会 様  
 医療法人 翠悠会 様

【奈良県立医科大学 総務広報課】  
 TEL：0744-22-3051 (内線 2803)  
 E-mail：hiyakukikin@naramed-u.ac.jp  
 【未来への飛躍基金 HP】  
 https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp  
 または「未来への飛躍基金」で検索！



# Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要	
2023年	11月14日	ラジオ大阪 新しいあなたの朝に！Happy・プラス	地域医療学講座 教 授 赤井 靖宏	〈早期診断・治療〉あなたが知らない糖尿病のホント 〈予防〉知らなきゃ損！糖尿病合併症は防げます！
	11月14日	ラジオ大阪 和田麻美子のみみよりだんご	地域医療学講座 教 授 赤井 靖宏 県民健康増進センター 係 長 山口 千影	〈食事療法〉美味しく食べて糖尿病予防
	11月14日	ラジオ大阪 Hit&Hit!	地域医療学講座 教 授 赤井 靖宏 医療技術センター 係 長 田中 秀和	〈運動〉糖尿病と悪化を防ぐ運動のコツ
	11月14日	ラジオ大阪 hanashikaの時間。	地域医療学講座 教 授 赤井 靖宏	〈糖尿病に負けない〉糖尿病との正しいお付き合い
	11月20日	九州医事新報社	循環器内科学 教 授 彦惣 俊吾	横顔就任インタビュー 「断らない医療」堅持し続けるために
2024年	2月2日	読売新聞		「視野広げること大切」 県立医科大、コシノジュンコさん特命教授に
	2月20日	九州医事新報社	精神医学 教 授 岡田 俊	横顔就任インタビュー 「小児から高齢者まで多様な疾患に対応」
	2月29日	ラジオNIKKEI第1放送 ドクターサロン	呼吸器内科学 教 授 室 繁郎	COPDでの酸素吸入
	3月2日	ウーマンライフ 奈良版		2月10日(土)開催 奈良県立医科大学主催 第7回県民公開講座「健康長寿」をのびし超高 齢社会を楽しく豊かに過ごそう！
	3月3日	読売新聞	感染症内科学 教 授 笠原 敬	お水取り制限緩和 感染対策 「行」の本質考え事前隔離やめ検査で対応
	3月10日	主婦の友社 OTONA SALONE (Web媒体)	精神医学 教 授 岡田 俊	ADHDに伴う負担を軽減するための工夫を学ぶ ペアレントトレーニングを解説
	3月10日	主婦の友社 OTONA SALONE (Web媒体)	精神医学 教 授 岡田 俊	学童期の発達障害についてアドバイス
	3月13日	日本経済新聞	生化学 教 授 中村 修平	奈良医大、4月1日に老化抑制で新研究所 学内横断、企業とも連携
	3月15日	読売新聞	生化学 教 授 中村 修平	奈良医大、4月1日に抗老化へ研究センター設立 4月16日に記念シンポジウム
	3月24日	毎日新聞別冊 わたしの毎日	疫学・予防医学 特任准教授 大林 賢史	夜間の光曝露と動脈硬化進行の関連について解説
	3月30日	奈良新聞 まちづくり座談会	理事長・学長 細井 裕司	高さ制限の緩和を 景観より命が大事
	4月3日	NHK Eテレ きょうの健康	臨床病態医学 教 授 山内 基雄	“快眠”新生活 睡眠時無呼吸症候群 働き盛りの睡眠トラブル
	4月10日(再)			機能性食品 制度見直し検討 機能性表示食品についてコメント
	4月6日	朝日新聞	公衆衛生学 教 授 今村 知明	
	4月11日 4月14日(再) 4月17日(再)	NHK 総合 石原さとみのあしたが変わるトリセツショー	消化器内科学 教 授 吉治 仁志	肝臓「奈良宣言」について
	4月13日	J-CAST ニュース	精神医学 教 授 岡田 俊	「自分でコントロールできるのでは」なぜ「チック」 は誤解されるのか、専門家と当事者に実情を聞いた
	4月14日	J-CAST ニュース	精神医学 教 授 岡田 俊	誤解受けやすい「トゥレット症」、 街で当事者見かけたら？向き合い方を考える
	4月17日	奈良新聞		県医大オートファジー研究センター設立記念シンポ 大隈氏が講演「研究のハピに」健康寿命の最新知見を ミュージック・ペンクラブ音楽賞
	4月18日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	「荣誉ある賞に感謝」細井学長に著作出版物賞 健康効果も安全性も作り方も「事業者任せ」機能性表示食 品は何が問題なのか。紅麹サプリの問題で専門家に聞いた
	4月18日	ハフポスト日本版	公衆衛生学 教 授 今村 知明	
	4月21日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	軟骨伝導を体験 育英西で高1生徒ら 体育館の床で実験 床から音!?軟骨伝導体験 育英西中・高「理系女子」育成授業
	4月21日	毎日新聞	理事長・学長 細井 裕司	
	4月21日	朝日新聞	理事長・学長 細井 裕司	「第3の聴覚」育英西高生が体験 軟骨伝導 大学教授ら解説
	4月22日	朝日新聞	生化学 教 授 中村 修平	県立医大 抗老化研究に期待 大隅良典さん講演 センター設立 企業・研究者と連携目指す
	4月24日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	奈良県医療における県立医大 少子化、高齢化対策を軸に
	4月26日	主婦の友社 OTONA SALONE (Web媒体)	精神医学 教 授 岡田 俊	「普通」って何？ ADHD本人、家族の葛藤と苦悩とは？ 【発達障害を映画化。北 宗羽介監督と考える】
	4月26日	主婦の友社 OTONA SALONE (Web媒体)	精神医学 教 授 岡田 俊	ADHD当事者、周囲の人、誰もが生きやすい社会とは？ 【発達障害を映画化。北 宗羽介監督と考える】
4月27日	読売新聞	理事長・学長 細井 裕司	「軟骨伝導」研究を高く評価 音楽賞 県立医科大学学長が受賞	

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

## 編集後記

皆様のご協力により第88号学報を発行することができました。ご協力、ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています、記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

